

女川原子力発電所 環境放射能調査結果(案)

令和7年度第3四半期

目 次

1	環境モニタリングの概要	1
(1)	調査実施期間	1
(2)	調査担当機関	1
(3)	調査項目	1
2	環境モニタリングの結果	3
(1)	原子力発電所からの予期しない放出の監視	3
	ア モニタリングステーションにおけるNaI(Tl)検出器による	
	空間ガンマ線量率	3
	イ 海水（放水）中の全ガンマ線計数率	3
	ウ ダストモニタによる大気中の放射性物質の濃度	4
(2)	周辺環境の保全の確認	1 4
	ア 電離箱検出器による空間ガンマ線量率	1 4
	イ 放射性物質の降下量	1 4
	ウ 環境試料の放射性核種濃度	1 4

資 料

1	調査地点	3 0
2	測定方法及び測定機器等	3 4
(1)	測定方法及び測定機器	3 4
(2)	検出下限値、数値及びトレンドグラフの表し方	3 8
3	測定結果	3 9
(1)	モニタリングステーションにおける空間ガンマ線量率測定結果	3 9
(2)	海水（放水）中の全ガンマ線計数率測定結果	7 2
(3)	ダストモニタによる大気中の放射性物質の濃度	7 5
(4)	空間ガンマ線積算線量測定結果	7 6
(5)	移動観測車による空間ガンマ線量率測定結果	7 8
(6)	環境試料の核種分析結果	8 0
	ア ゲルマニウム半導体検出器による分析結果	8 0
	イ Sr（ストロンチウム）-90の分析結果	8 8
	ウ H-3（トリチウム）の分析結果	8 8
4	女川原子力発電所の運転状況	8 9
(1)	1号機の廃止措置の状況	8 9
(2)	2号機の運転状況	8 9
(3)	3号機の運転状況	9 0
(4)	放射性廃棄物の管理状況	9 1
(5)	モニタリングポスト測定結果	9 2

1 環境モニタリングの概要

女川原子力発電所環境放射能測定基本計画及び同実施計画に基づき、令和7年度第3四半期に実施した環境モニタリングの概要は、以下のとおりである。

(1) 調査実施期間

令和7年10月から令和7年12月まで

(2) 調査担当機関

	調査担当機関
宮 城 県	環境放射線監視センター
東北電力㈱	女川原子力発電所

(3) 調査項目

東北電力㈱女川原子力発電所から周辺地域への予期しない放射性物質の放出を監視するため、周辺11か所に設置したモニタリングステーションにおいて空間ガンマ線量率を、同発電所放水口付近3か所に設置した放水口モニターにより海水(放水)中の全ガンマ線計数率を、周辺2か所に設置したダストモニタにより大気中の放射性物質の濃度を、それぞれ連続で測定した。

また、周辺地域における放射性降下物の状況のほか、人工放射性核種の放射能濃度の推移を把握し、同発電所の運転に伴う環境への放射能の影響の有無を評価するため、各種環境試料について核種分析を行った。

なお、評価にあたっては、原則として原子力発電所から周辺環境へ放出されるおそれのある核種のうち女川原子力発電所環境放射能測定基本計画における環境放射能評価方法において規定する人工放射性核種(以下「対象核種」という。)を対象として行う。

表－1に令和7年度第3四半期の調査実績を示す。

表－１ 令和７年度第３四半期の調査実績*1

調 査 対 象		検出器または試料名		宮城県		東北電力		合 計	
				地 点 数	測定頻度 または 試 料 数	地 点 数	測定頻度 または 試 料 数	地 点 数	測定頻度 または 試 料 数
空 間 ガンマ 線	線 量 率	モニタリング グステーシ ョン(MS)	Na I	7	連続	4	連続	1 1	連続
			電離箱	7 *2	連続*2	4	連続	1 1 *2	連続*2
		広域 MS	電離箱	1 0	連続			1 0	連続
		移動観測車	Na I	2 4	1 回	1 7	1 回	4 1	各 1 回
	積 算 線 量		R P L D*3	1 9	1 回	1 3	1 回	3 2	各 1 回
海水（放水）中の全ガン マ線計数率			Na I			3	連続	3	連続
大気中 の放射 性物質	全アルファ放射 能濃度		Z n S	2	連続			2	連続
	全ベータ放射能 濃度		プラスチック						
降 下 物			月 間	2	6	2	6	4	1 2
			四半期間	3	3	2	2	5	5
環 境 放 射 能	陸 上 試 料	農 産 物		3	5	2	3	5	8
		陸 水				1	1	1	1
		陸 土				1	1	1	1
		浮 遊 じ ん		2	6	4	8	6	1 4
		指 標 植 物				3	3	3	3
	海 洋 試 料	魚 介 類		5	5	2	2	7	7
		海 藻							
		海水(共沈法)		3	3	2	2	5	5
		海水(迅速法)*4		(1)	1	(1)	2	(2)	3
		海 底 土		3	3	2	2	5	5
		指標海産物(灰化法)		4	4	3	3	7	7
		指標海産物(迅速法)*4		(3)	3	(3)	3	(6)	6
降下物及び環境試料数合計				2 5	3 9	2 4	3 8	4 9	7 7

*1 対照地点を含む。

*2 女川局については、10月29日～12月26日の期間、検出器内の異常な放電に伴う故障により欠測となった。

*3 RPLDは蛍光ガラス線量計のことをいう。

*4 共沈法または灰化法に合わせて実施している場合の地点数はカッコ書きとし、合計に含めない。

2 環境モニタリングの結果

本期間中の環境モニタリングの結果、周辺 11 か所に設置したモニタリングステーションにおける空間ガンマ線量率、発電所放水口付近 3 か所に設置した放水口モニターによる海水（放水）中の全ガンマ線計数率及び周辺 2 か所に設置したダストモニタによる大気中の放射性物質の濃度において、異常な値は観測されなかった。

女川原子力発電所周辺地域における降下物及び環境試料からは、対象核種のうちCs（セシウム）-134、Cs-137、Sr（ストロンチウム）-90及びH-3（トリチウム）が検出されたが、他の対象核種については検出されなかった。

以上の環境モニタリングの結果並びに女川原子力発電所の運転状況及び放射性廃棄物の管理状況から判断して、女川原子力発電所に起因する環境への影響は認められず、検出された人工放射性核種は東京電力福島第一原子力発電所事故（以下「福島第一原発事故」という。）と過去の核実験の影響と考えられた。

（1）原子力発電所からの予期しない放出の監視

ア モニタリングステーションにおけるNaI(Tl)検出器による空間ガンマ線量率

原子力発電所からの予期せぬ放射性物質の放出を監視するため、周辺 11 か所のモニタリングステーションで、NaI(Tl)検出器による空間ガンマ線量率を連続で測定した。その結果を図-2-1 から図-2-11 に示す。

現在推移している線量率には、福島第一原発事故により地表面等に沈着した人工放射性核種の影響が認められる。また、一時的な線量率の上昇が観測されているが、これは主に降水による天然放射性核種の降下の影響と考えられ、女川原子力発電所に起因する異常な線量率の上昇は認められなかった。

イ 海水（放水）中の全ガンマ線計数率

放水口付近の 3 か所の放水口モニターで海水（放水）中の全ガンマ線計数率を連続で測定した。その結果を図-2-12 から図-2-15 に示す。

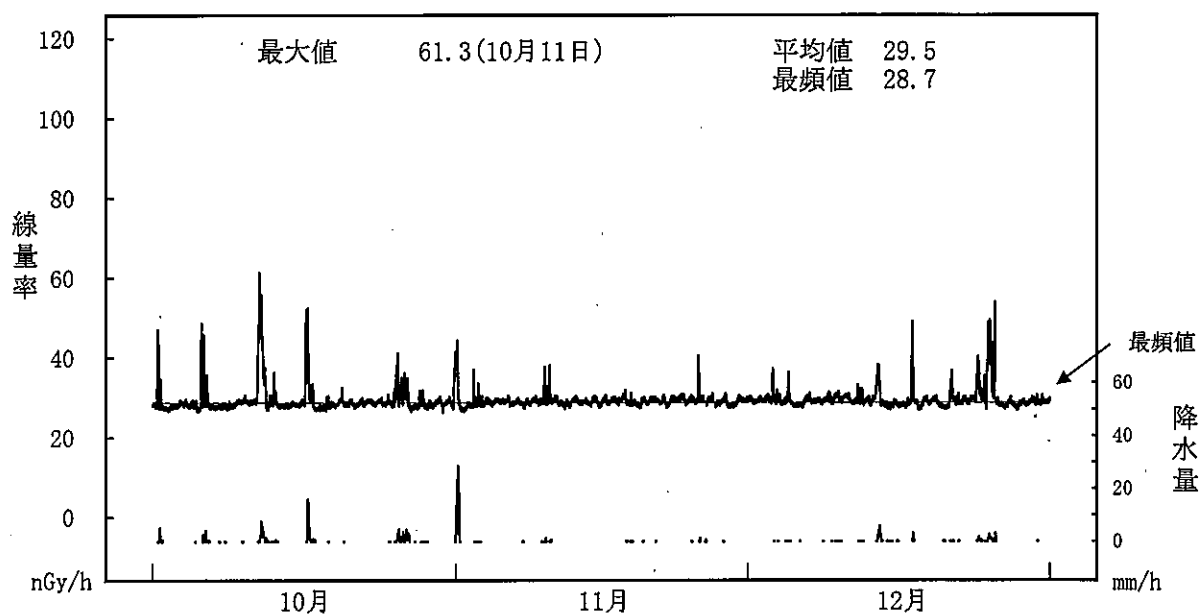
海水（放水）中の全ガンマ線計数率の変動は、降水及び海象条件他の要因による天然放射性核種の濃度の変動によるものであり、女川原子力発電所に起因する異常な計数率の上昇は認められなかった。

ウ ダストモニタによる大気中の放射性物質の濃度

原子力発電所からの予期せぬ放射性物質の放出を監視するため、周辺 2 か所のモニタリングステーションに設置したダストモニタにより、大気浮遊じんを連続で採取及び測定した。その結果を図－2－16 から図－2－17 に示す。

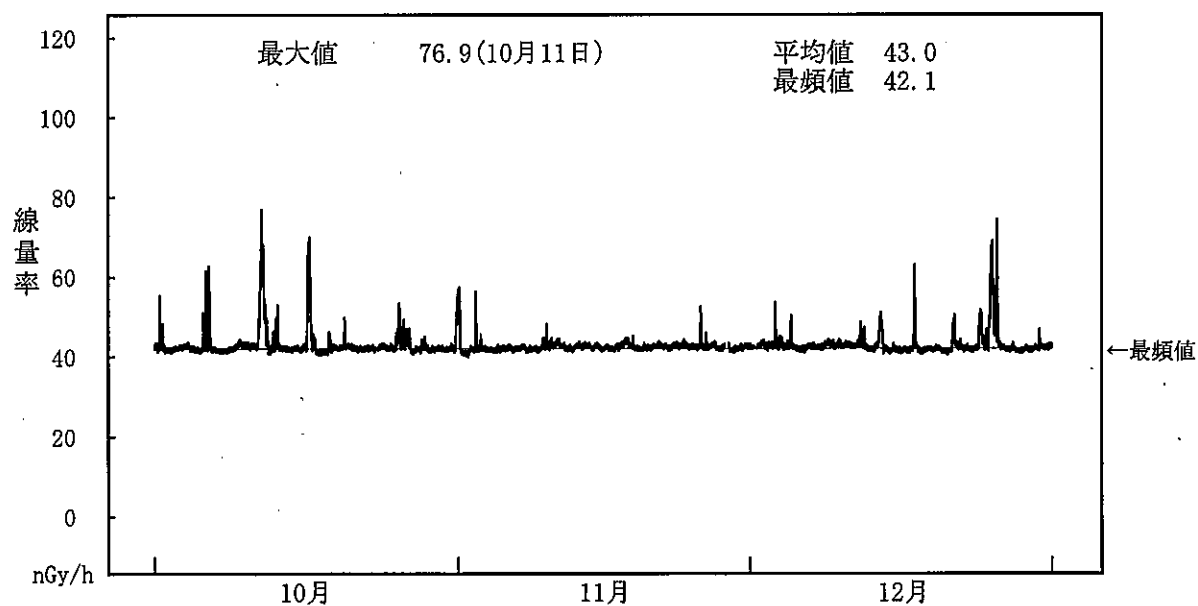
放射性物質の濃度の変動は、大気中の天然放射性核種の濃度の変動によるものであり、女川原子力発電所に起因する異常な放射性物質の濃度の上昇は認められなかった。

なお、全ベータ及び全アルファ放射能濃度がいずれも低い場合、わずかな濃度の変動によって濃度比が上昇する場合があります、一時的な濃度比の上昇は、このことに起因するものと考えられる。



図－２－１ NaI(Tl)検出器による空間ガンマ線量率監視結果（女川局）

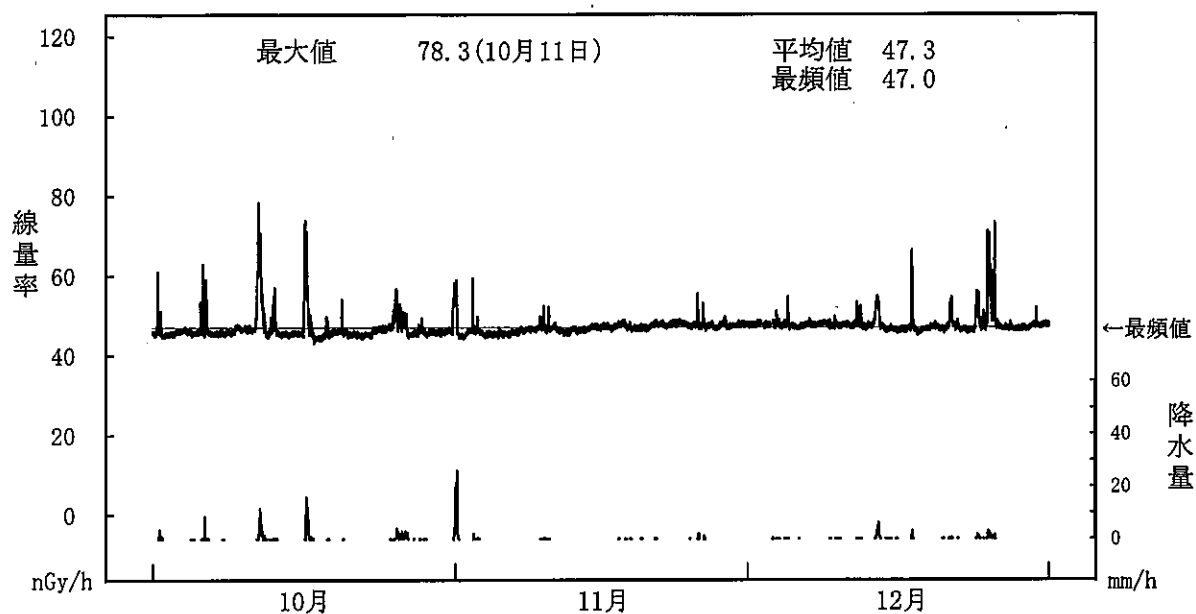
(注) 1. 1月26日及び27日の欠測は、定期点検によるものである。



図－２－２ NaI(Tl)検出器による空間ガンマ線量率監視結果（飯子浜局）

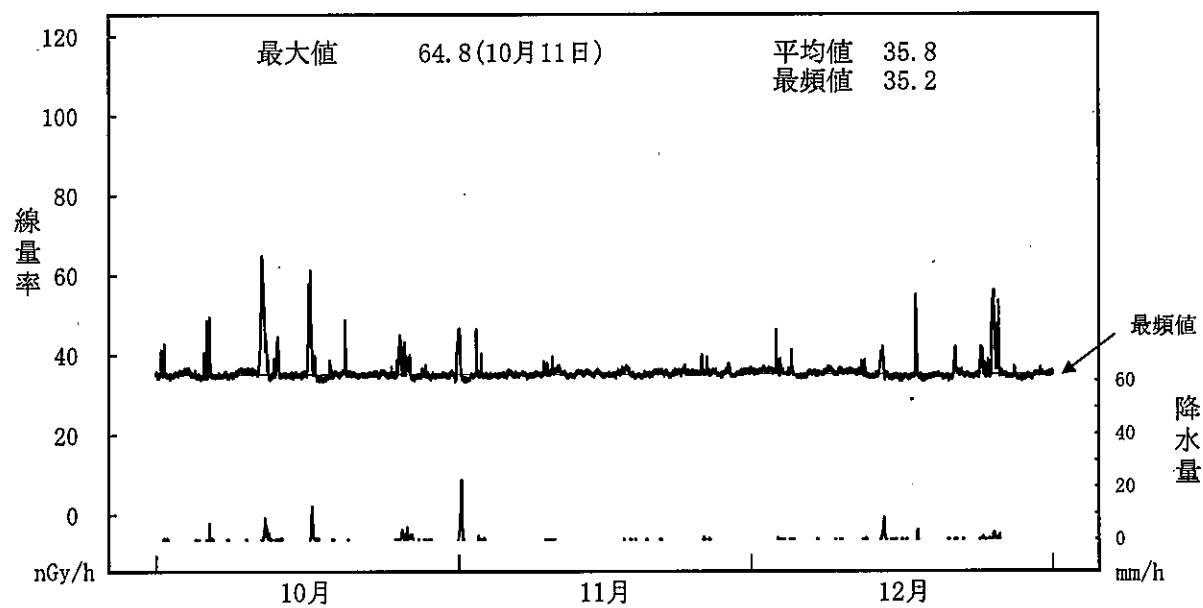
(注) 1. 10月20日及び23日の欠測は、測定方法の改良を目的とした線源照射試験によるものである。
2. 11月28日及び12月1日の欠測は、定期点検によるものである。

令和7年度



図－２－３ NaI(Tl)検出器による空間ガンマ線量率監視結果（小屋取局）

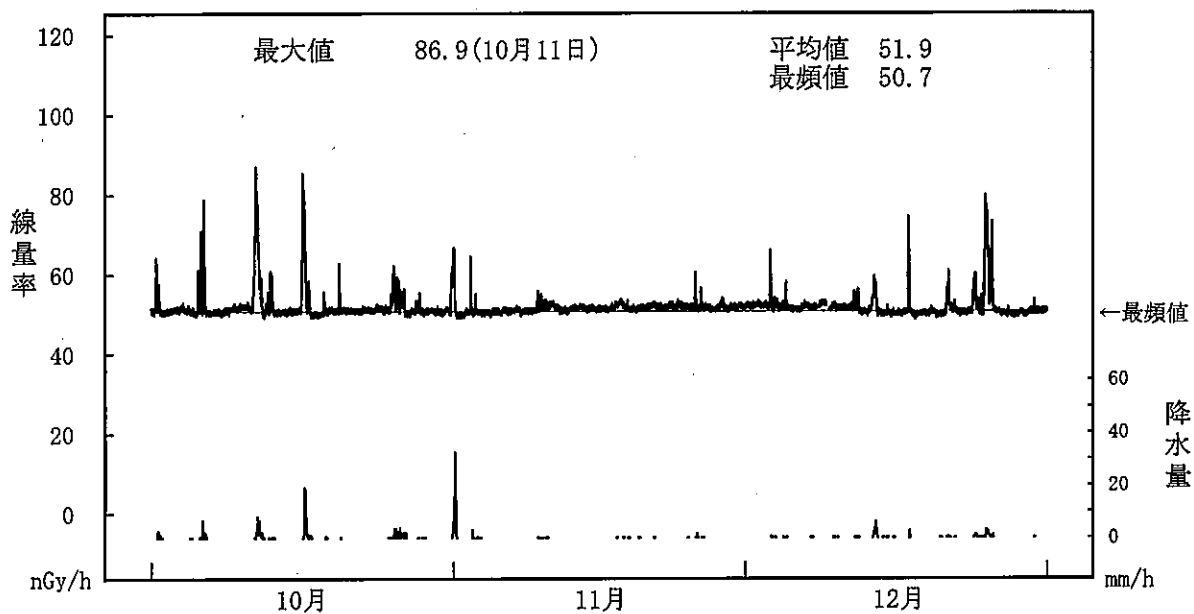
(注) 12月2日及び3日の欠測は、定期点検によるものである。



図－２－４ NaI(Tl)検出器による空間ガンマ線量率監視結果（寄磯局）

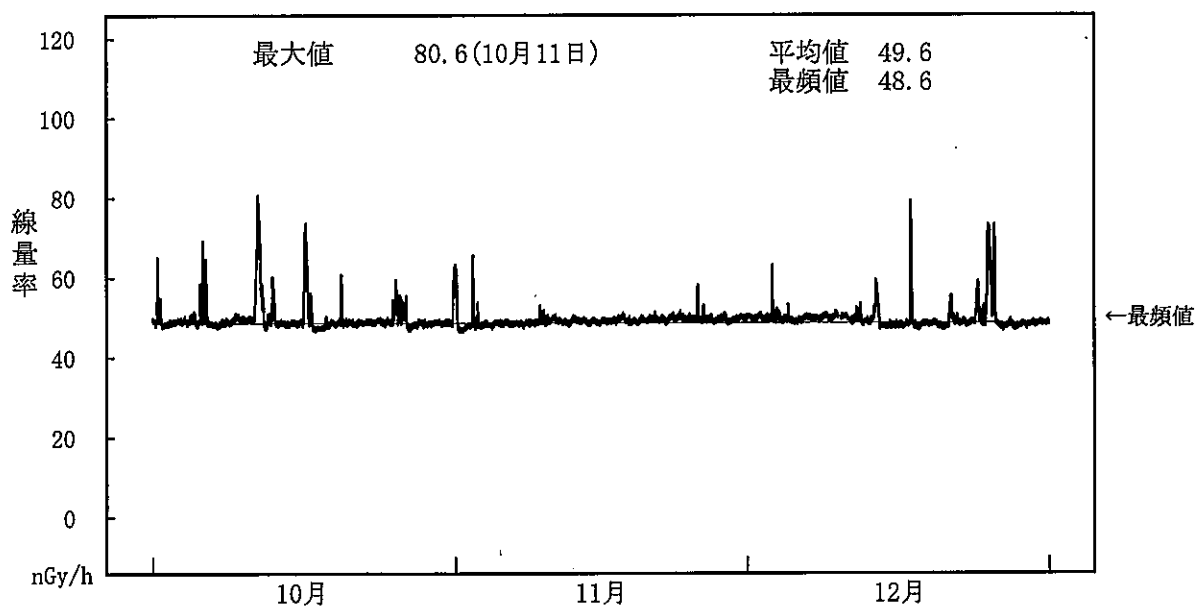
(注) 12月4日及び5日の欠測は、定期点検によるものである。

令和7年度



図－２－５ NaI(Tl)検出器による空間ガンマ線量率監視結果（鯨浦局）

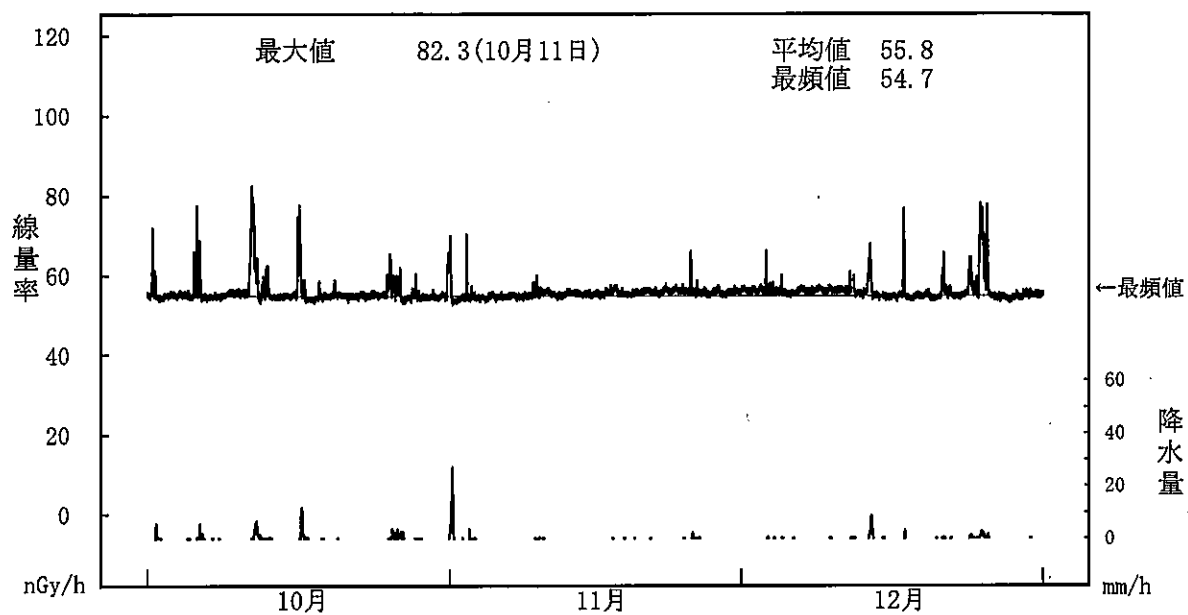
(注) 12月8日及び9日の欠測は、定期点検によるものである。



図－２－６ NaI(Tl)検出器による空間ガンマ線量率監視結果（谷川局）

(注) 12月10日及び11日の欠測は、定期点検によるものである。

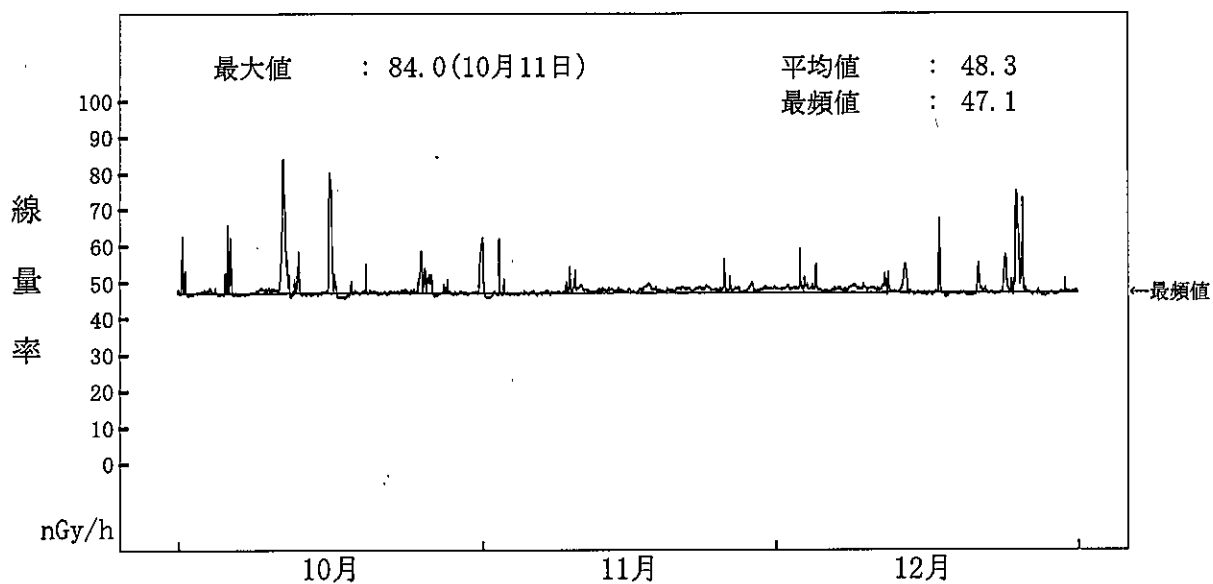
令和7年度



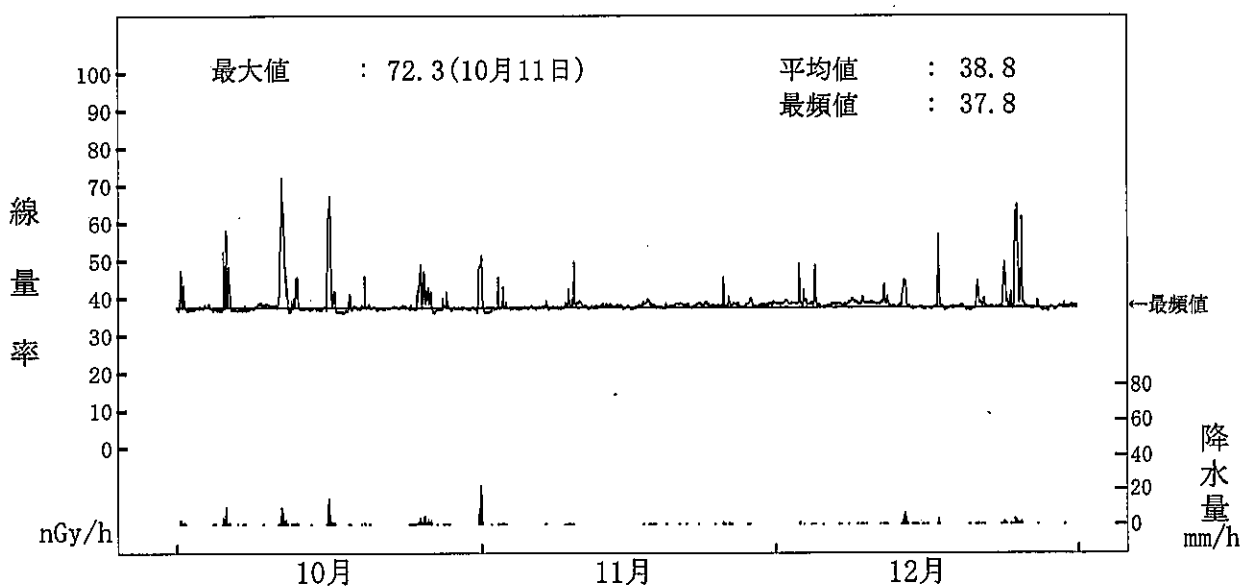
図－２－７ NaI(Tl)検出器による空間ガンマ線量率監視結果（荻浜局）

（注）12月12日及び15日の欠測は、定期点検によるものである。

令和7年度

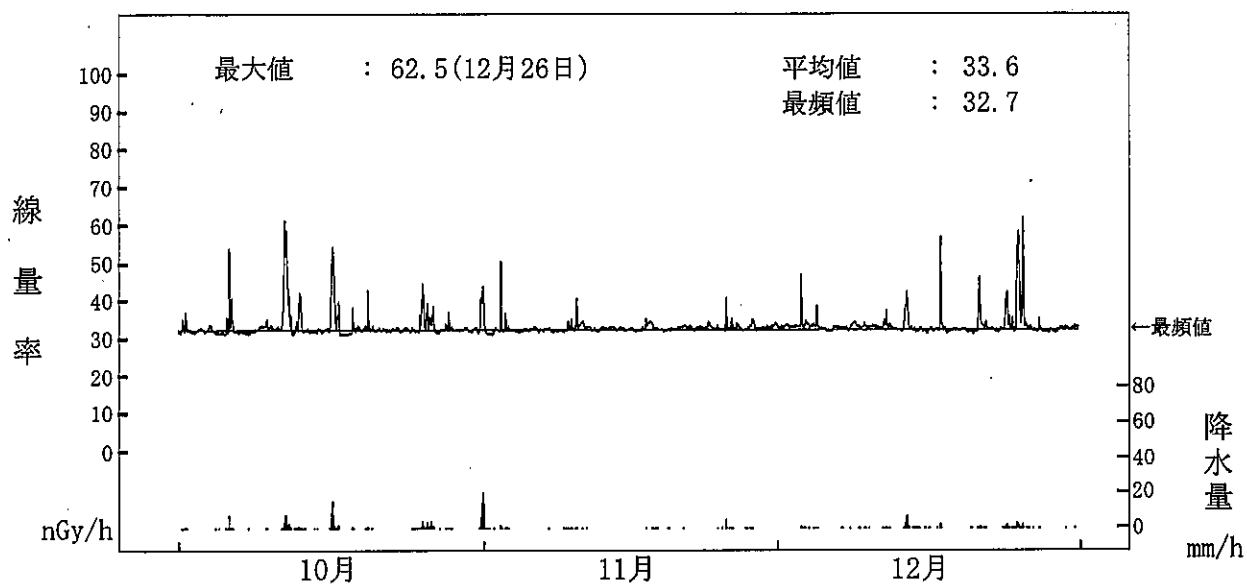


図－２－８ NaI(Tl)検出器による空間ガンマ線量率監視結果（塚浜局）

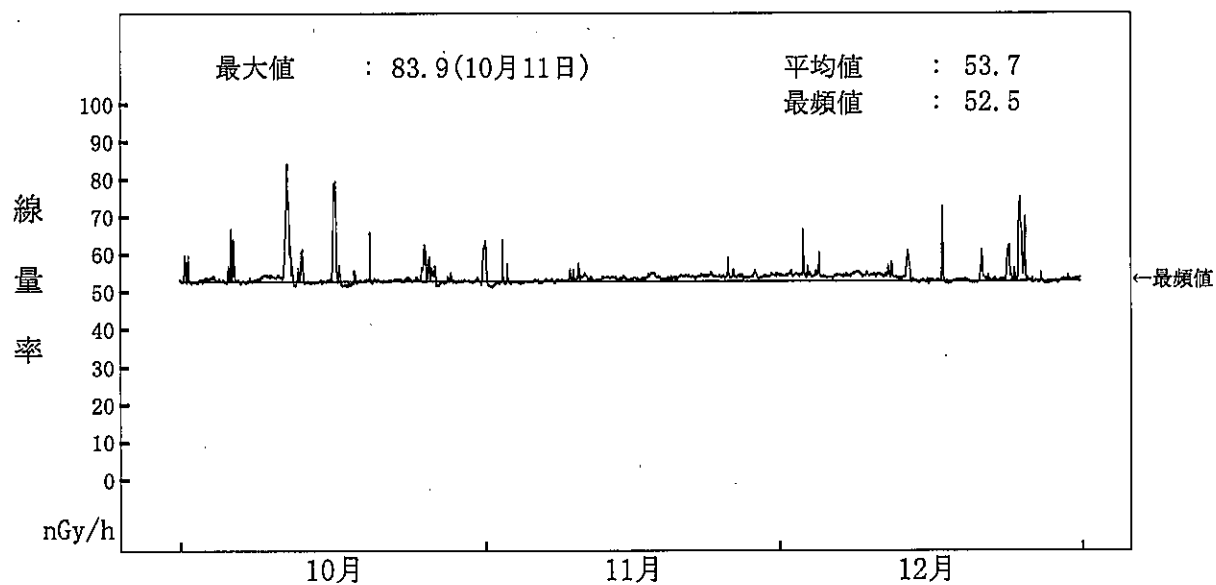


図－２－９ NaI(Tl)検出器による空間ガンマ線量率監視結果（寺間局）

令和7年度

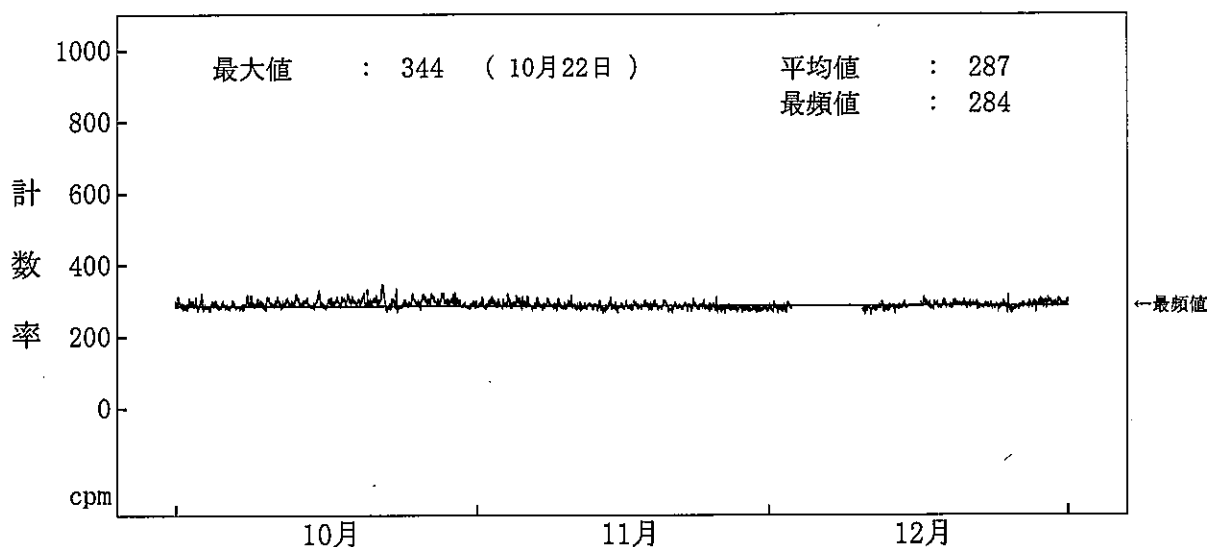


図－２－１０ NaI(Tl)検出器による空間ガンマ線量率監視結果（江島局）



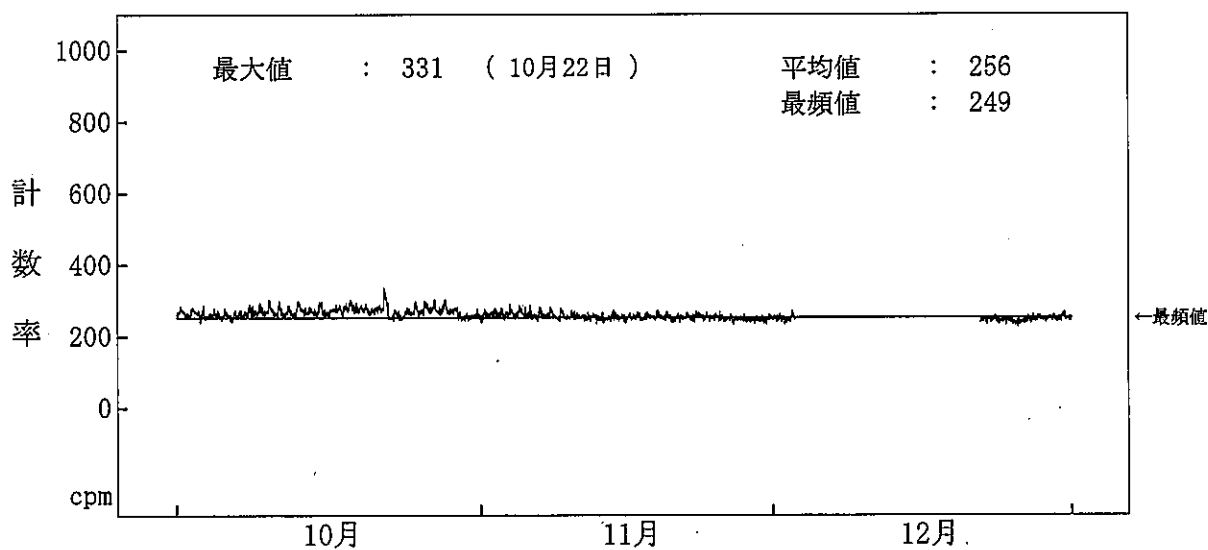
図－２－１１ NaI(Tl)検出器による空間ガンマ線量率監視結果（前網局）

令和7年度



図－２－１２ 海水(放水)中の全ガンマ線計数率監視結果(1号機放水口モニター(A))

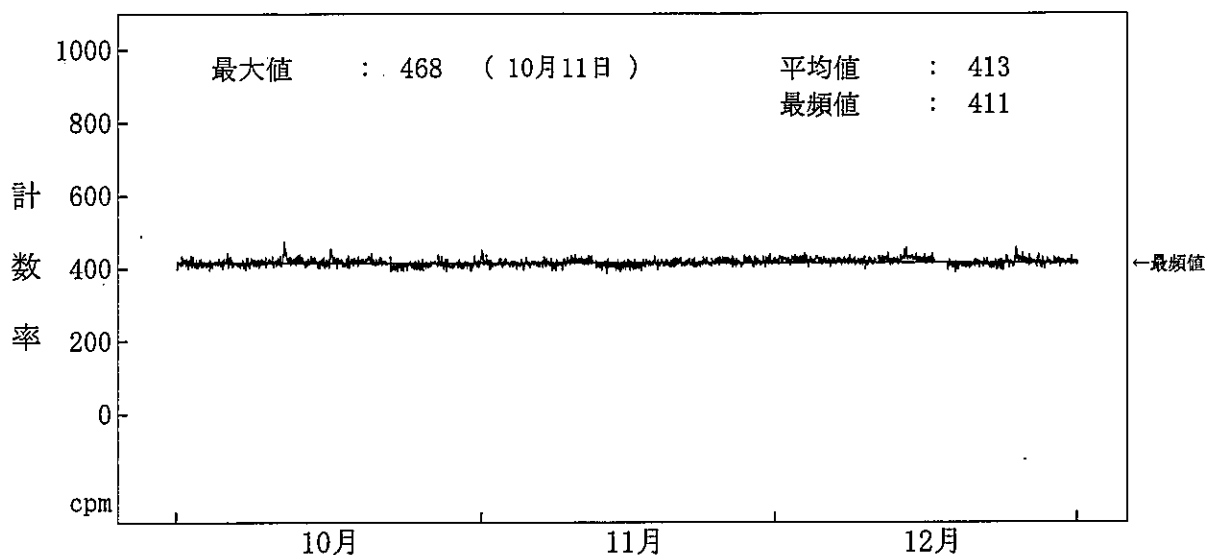
- (注1) 12月3日～10日、12月15日～16日及び12月19日の欠測は、定期点検によるものである。
 (注2) 10月1日～11月9日の計数率の上昇は、潮位の変動等により放水口モニターを設置している放水立坑内上層部にある天然放射性核種を多く含む淡水層の影響を受けやすくなったことによるものと推定された。



図－２－１３ 海水(放水)中の全ガンマ線計数率監視結果(1号機放水口モニター(B))

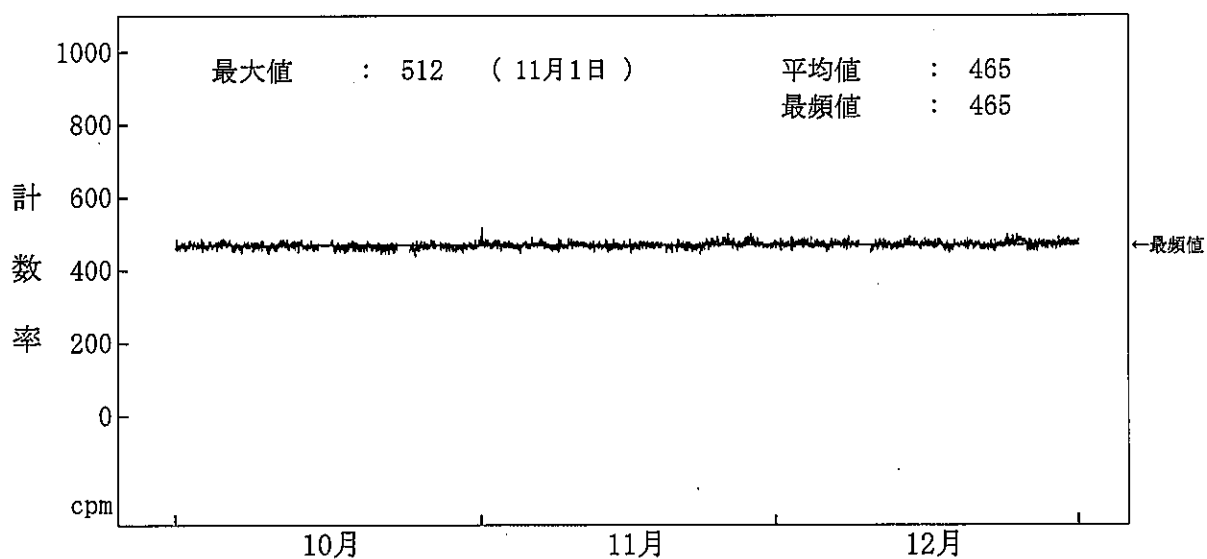
- (注1) 12月3日～22日の欠測は、定期点検によるものである。
 (注2) 10月1日～11月9日の計数率の上昇は、潮位の変動等により放水口モニターを設置している放水立坑内上層部にある天然放射性核種を多く含む淡水層の影響を受けやすくなったことによるものと推定された。

令和7年度



図－２－１４ 海水(放水)中の全ガンマ線計数率監視結果(２号機放水口モニター)

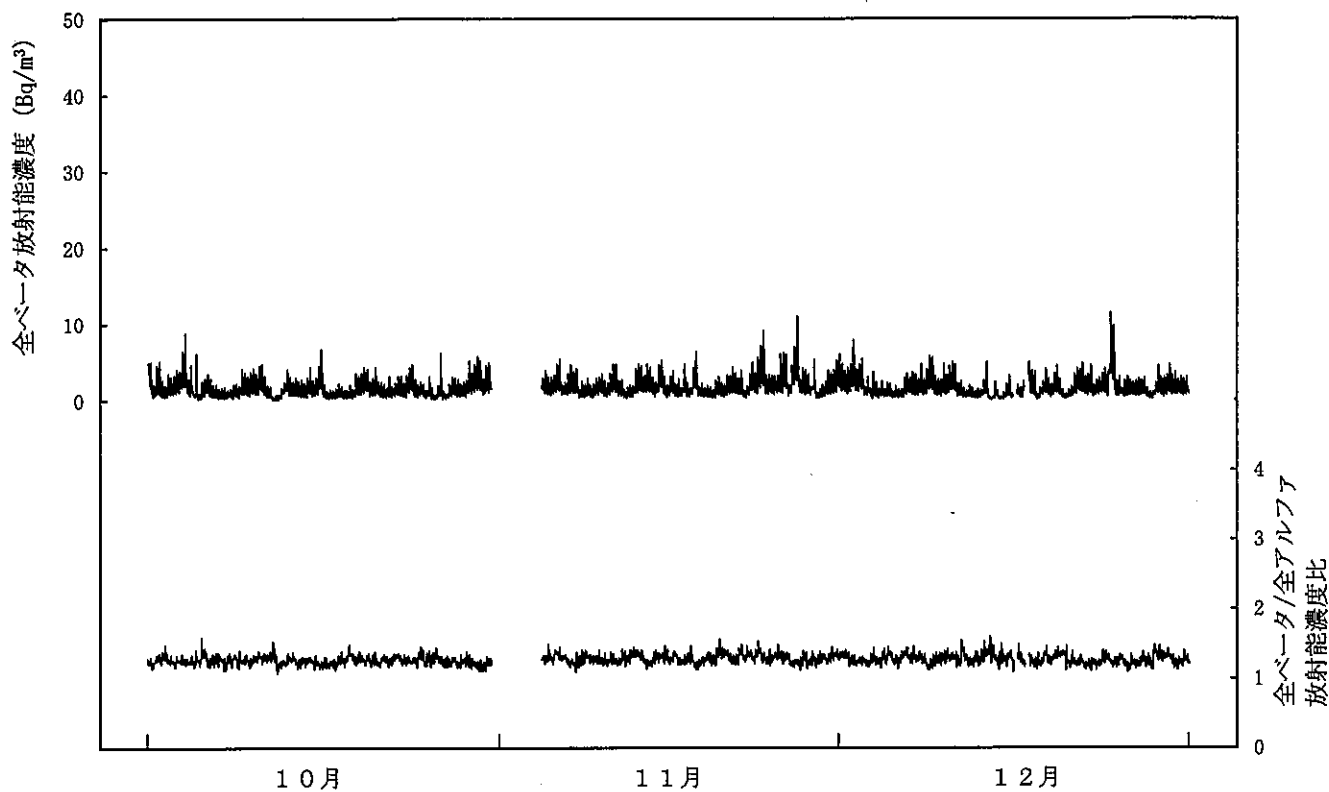
(注) 10月22日、11月12日、12月11日及び12月17日～18日の欠測は、定期点検によるものである。



図－２－１５ 海水(放水)中の全ガンマ線計数率監視結果(３号機放水口モニター)

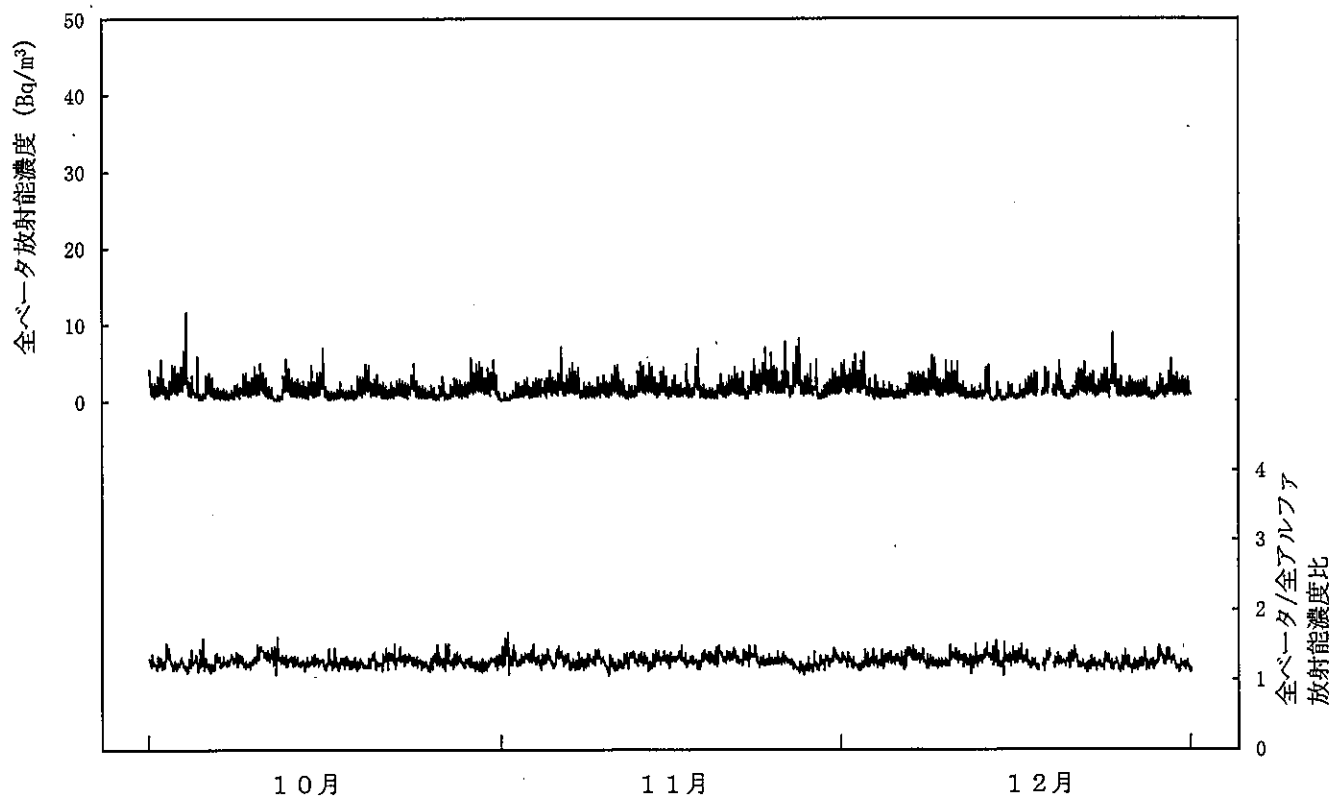
(注) 10月15日～16日、10月23日～24日、10月27日、11月19日及び12月9日～10日の欠測は、定期点検によるものである。

令和7年度



図－２－１６ 大気中の放射性物質の全ベータ放射能濃度及び
全ベータ／全アルファ放射能濃度比（飯子浜局）

（注）１０月３１日～１１月４日の欠測は、ろ紙送り異常によるものである。
１２月１６日及び１７日の欠測は、定期点検によるものである。



図－２－１７ 大気中の放射性物質の全ベータ放射能濃度及び
全ベータ／全アルファ放射能濃度比（鮫浦局）

（注）１２月１８日及び１９日の欠測は、定期点検によるものである。

令和７年度

(2) 周辺環境の保全の確認

空間ガンマ線量率等のレベル並びに放射性核種の濃度及び分布について調査した結果、女川原子力発電所の影響は認められなかった。

ア 電離箱検出器による空間ガンマ線量率

表－２－１に、モニタリングステーションにおける電離箱検出器による空間ガンマ線量率の測定結果を示す。福島第一原発事故前から測定している局においては、同事故前の測定値の範囲内であった。

イ 放射性物質の降下量

表－２－２及び表－２－３に、降下物中の対象核種のうち、Mn（マンガン）－54、Co（コバルト）－58、Fe（鉄）－59、Co-60、Cs-134、Cs-137について分析した結果を示す。なお、本期間における欠測はなかった。

分析の結果、Cs-137が検出されたが、これまでの推移や他の対象核種が検出されていないこと、女川原子力発電所の運転状況等から、福島第一原発事故の影響によるものと考えられる。

図－２－１８に昭和６１年度以降のCs-137に係る月間降下量、図－２－１９に同事故後のCs-137に係る四半期間降下量、図－２－２０に同事故後のCs-137に係る月間降下量及び図－２－２１に同事故後のCs-134に係る月間降下量について、それぞれの推移を示す。

ウ 環境試料の放射性核種濃度

人工放射性核種の分布状況や推移等を把握するため、降下物以外の種々の環境試料についても核種分析を実施した。なお、本期間における欠測はなかった。

表－２－４に迅速法による海水及びアラムのI（ヨウ素）－131の分析結果を示す。I-131は検出されなかった。

表－２－５に環境試料の核種分析結果の概要を示す。また、図－２－２２から図－２－３５には、福島第一原発事故後の各種環境試料中における人工放射性核種濃度の推移を示す。

対象核種については、精米、松葉、アイナメ、マガキ、海水、海底土及びアラムの試料からCs-137が検出された。これらのうち、精米、松葉、アイナメ、マガキ、海水及びアラムについては、同事故前における測定値の範囲内であった。海底土については、同事故前における測定値の範囲を超過していたが、同事故の影

響による高い測定値を除外した平成28年度以降における測定値の範囲内であり、これまでの推移や他の対象核種が検出されていないこと、女川原子力発電所の運転状況等から、同事故の影響によるものと考えられる。

陸土の試料からは、Cs-134及びCs-137が検出され、同事故前における測定値の範囲を超過していたが、同事故の影響による高い測定値を除外した平成28年度以降における測定値の範囲内であり、これまでの推移やCs-134とCs-137の放射能比等から、その原因は同事故の影響によるものと考えられる。

また、陸土の試料からはSr-90が検出されたが、同事故前における測定値の範囲を下回った。

H-3については、陸水の試料から検出されたが、同事故前における測定値の範囲内であった。

これら以外の対象核種については、いずれの試料からも検出されなかった。

表－２－１ 空間ガンマ線量率測定結果（電離箱検出器による線量率）

種別	調査機関	局名	項目	10月	11月	12月	前年度までの測定値 ^{*1}	単位
							最小値～最大値	
							上段：平成22年度以前の値 ^{*2} 下段：平成23年度以降の値	
空間ガンマ線量率	宮城県	女川	平均値	66.9	— ^{*3}	(67.8) ^{*4}	53.7 ～ 103.3	nGy/h
			標準偏差	3.9	—	(1.3)		
			最大値	95.2	—	(72.9)	60.7 ～ 128.0	
			最小値	62.3	—	(64.2)		
		飯子浜 ^{*5}	平均値	83.2	82.5	83.6	—	
			標準偏差	4.1	1.9	3.2		
			最大値	116.1	99.2	113.9	72.0 ～ 117.8	
			最小値	77.6	77.9	78.2		
		小屋取	平均値	83.1	83.4	84.7	67.0 ～ 124.3	
			標準偏差	3.8	1.9	2.9		
			最大値	111.0	96.5	109.2	77.3 ～ 160.3	
			最小値	77.0	78.3	79.2		
		寄磯	平均値	76.7	76.3	77.1	61.2 ～ 105.0	
			標準偏差	3.6	1.7	2.7		
			最大値	102.9	88.6	97.3	58.8 ～ 141.3	
			最小値	71.5	71.3	71.5		
		鮫浦 ^{*5}	平均値	99.0	98.2	99.1	—	
			標準偏差	4.4	2.0	3.4		
			最大値	131.4	115.1	126.7	88.2 ～ 140.0	
			最小値	92.7	91.4	91.7		
		谷川 ^{*5}	平均値	82.1	81.5	82.6	—	
			標準偏差	3.8	1.6	3.1		
			最大値	110.4	97.5	108.6	76.2 ～ 121.8	
			最小値	77.3	77.5	78.1		
		荻浜 ^{*5}	平均値	88.9	88.5	89.8	—	
			標準偏差	3.5	1.7	3.1		
			最大値	112.9	103.8	111.5	83.7 ～ 127.7	
			最小値	84.3	84.1	85.4		
	東北電力	塚浜	平均値	78.0	77.5	78.5	68.2 ～ 126.3	
			標準偏差	4.3	1.7	3.2		
			最大値	111.2	93.1	108.6	73.1 ～ 158.4	
			最小値	74.0	74.1	74.4		
		寺間	平均値	72.7	72.2	73.4	61.4 ～ 121.0	
			標準偏差	4.2	1.6	3.2		
			最大値	103.9	86.5	99.8	67.8 ～ 139.3	
			最小値	68.8	68.0	68.9		
		江島	平均値	63.7	63.5	64.6	56.4 ～ 103.3	
			標準偏差	3.4	1.6	3.2		
			最大値	91.0	86.7	92.9	59.2 ～ 127.5	
			最小値	60.0	60.4	60.9		
		前網	平均値	82.1	81.9	83.0	69.7 ～ 126.3	
			標準偏差	3.6	1.4	2.8		
			最大値	109.1	93.3	104.2	77.4 ～ 165.2	
			最小値	78.1	78.7	79.0		

*1 小屋取は昭和57年度から、女川及び寄磯局は昭和58年度から、塚浜、寺間、江島及び前網局は昭和59年度からの測定値の範囲を示す。

*2 福島第一原発事故前後で区別して過去の測定値の範囲を示す。なお、震災の影響により、平成23年3月11日から平成23年4月～9月まで欠測が生じている（復旧時期は局により異なる）。

*3 検出器内の異常な放電に伴う故障により、有効データ数が月の半数に満たないことから（月欠測）とし、全期間において欠測であることから「—」で示す。

*4 検出器内の異常な放電に伴う故障により、有効データ数が月の半数に満たないことから（月欠測）とし、12月26日～31日まで測定したことから参考値扱いとし（ ）で示す。

*5 震災で被災したモニタリングステーションを移転、再建し、平成31年4月から測定を開始した。

令和7年度

(参考) 広域モニタリングステーション^{*1}における空間ガンマ線量率測定結果
(電離箱検出器による線量率)

種別	調査機関	局名	項目	10月	11月	12月	前年度までの測定値*2 最小値～最大値	単位
空間ガンマ線量率	宮城県	石巻市	平均値	62.0	61.5	62.3	53.3 ～ 118.4	nGy/h
			標準偏差	3.4	1.7	2.7		
			最大値	85.0	75.0	90.0		
			最小値	58.3	58.3	58.3		
		雄勝町	平均値	62.6	62.0	63.2	56.7 ～ 141.7	
			標準偏差	4.9	1.9	3.8		
			最大値	95.0	78.3	98.3		
			最小値	58.3	58.3	58.3		
		河内町	平均値	59.4	59.0	59.9	51.7 ～ 143.4	
			標準偏差	4.3	1.9	3.2		
			最大値	93.3	76.7	86.7		
			最小値	55.0	55.0	55.0		
		河北町	平均値	63.5	63.1	64.0	53.3 ～ 128.3	
			標準偏差	3.5	1.7	2.8		
			最大値	85.0	75.0	86.7		
			最小値	58.3	58.3	58.3		
		北上町	平均値	74.3	74.4	75.4	66.7 ～ 141.7	
			標準偏差	4.2	1.9	2.9		
			最大値	100.0	91.7	98.3		
			最小値	70.0	70.0	70.0		
		鳴瀬町	平均値	56.8	56.3	57.4	51.7 ～ 130.0	
			標準偏差	4.7	1.7	3.2		
			最大値	93.3	71.7	85.0		
			最小値	51.7	51.7	53.3		
		南郷町	平均値	61.2	61.1	62.4	53.3 ～ 153.3	
			標準偏差	4.6	1.9	3.3		
			最大値	93.3	78.3	91.7		
			最小値	56.7	56.7	58.3		
		涌谷町	平均値	58.6	58.2	59.1	51.7 ～ 146.7	
			標準偏差	3.8	1.7	3.0		
			最大値	83.3	71.7	86.7		
			最小値	55.0	55.0	55.0		
		津山町	平均値	63.0	62.8	63.7	55.0 ～ 128.3	
			標準偏差	3.7	1.9	3.2		
			最大値	86.7	75.0	90.0		
			最小値	58.3	58.3	58.3		
		志津川町	平均値	61.9	61.4	62.4	56.7 ～ 126.7	
			標準偏差	4.6	1.8	3.4		
			最大値	96.7	76.7	96.7		
			最小値	56.7	56.7	58.3		

*1 広域モニタリングステーションとは、原子力規制委員会「原子力災害対策指針（平成24年10月31日制定）」に示された「緊急防護措置を準備する区域（UPZ）」内に県が新たに設置したモニタリングステーションをいう。

*2 平成25年度からの測定値の範囲を示す。

令和7年度

表一 2-2 月間降下物(雨水・ちり)中の放射性核種分析結果^{*1}

核種	令和7年度第3四半期測定値 ^{*2}		前年度までの測定値 ^{*3,4}			単位
			(上段)平成2年度～平成23年2月 (下段)平成28年度～令和6年度		(参考) 福島第一原発事故 後5年間の最大値 ^{*5}	
	試料数	最小値～最大値	試料数	最小値～最大値		
Mn-54	9	N D	749	N D N D	N D	Bq/m ²
Co-58		N D		N D N D	N D	
Fe-59		N D		N D N D	N D	
Co-60		N D		N D N D	N D	
Cs-134		N D		N D N D～0.57	9329	
Cs-137		N D～0.14		N D～0.14 N D～6.93	9248	

*1 NDは検出下限値未満であることを示す。

*2 女川町浦宿浜(女川オフサイトセンター)、小屋取及び牡鹿ゲートにおける測定値を示し、対照地点(仙台市宮城野区幸町(環境放射線監視センター))の測定値を除く。

*3 女川町浦宿浜(女川宿舎及び女川オフサイトセンター)、旧原子力センター(女川)、小屋取及び牡鹿ゲートにおける測定値の範囲を示し、対照地点(保健環境センター、旧原子力センター(仙台)及び仙台市宮城野区幸町(環境放射線監視センター))の測定値を除く。

*4 測定値の範囲は福島第一原発事故の前後に分けて示し、同事故後は同事故の影響による高い測定値を除外した平成28年度以降における測定値の範囲を示す。

*5 平成23年3月～平成27年度における最大値を示す。

表一 2-3 四半期間降下物(雨水・ちり)中の放射性核種分析結果^{*1}

核種	令和7年度第3四半期測定値 ^{*2}		前年度までの測定値 ^{*3,4}			単位
			(上段)平成11年度～平成22年12月 (下段)平成28年度～令和6年度		(参考) 福島第一原発事故 後5年間の最大値 ^{*5}	
	試料数	最小値～最大値	試料数	最小値～最大値		
Mn-54	5	N D	231	N D N D	N D	Bq/m ²
Co-58		N D		N D N D	N D	
Fe-59		N D		N D N D	N D	
Co-60		N D		N D N D	N D	
Cs-134		N D		N D N D～3.3	8615	
Cs-137		0.18～0.39		N D～0.20 N D～21.5	8438	

*1 NDは検出下限値未満であることを示す。

*2 飯子浜、鮫浦、谷川浜、塚浜及び付替県道における測定値を示す。

*3 飯子浜、鮫浦、谷川浜、尾浦、渡波、大原、塚浜及び付替県道における測定値を示す。

*4 測定値の範囲は福島第一原発事故の前後に分けて示し、同事故後は同事故の影響による高い測定値を除外した平成28年度以降における測定値の範囲を示す。

*5 平成23年1月～平成27年度における最大値を示す。

表-2-4 迅速法による海水、アラメ及びエゾノネジモク中のI-131分析結果^{*1}

試料名	採取海域	令和7年度 第3四半期測定値		前年度までの測定値 ^{*2}			単位
				(上段) 平成18年度～平成22年度 (下段) 平成28年度～令和6年度		(参考) 福島第一原発事故 後5年間の最大値 ^{*3}	
		試料数	最小値～最大値	試料数	最小値 ～ 最大値		
海水	放水口付近	3	N D	31 108	N D N D	N D	mBq/L
アラメ	放水口付近	1	N D	52 20	N D～0.30 N D	N D	Bq/kg 生
	前面海域	1	N D	24 20	N D～0.13 N D～0.10	1.34	
	周辺海域	1	N D	20 16	N D～0.13 N D～0.11	0.11	
	対照海域	3	N D	62 57	N D～0.47 N D～1.14	0.41	
エゾノ ネジモク	放水口付近			— 12	— N D	—	Bq/kg 生
	前面海域			— 12	— N D	—	
	周辺海域			— 11	— N D～0.17	—	
	対照海域			— 32	— N D～0.23	—	

*1 NDは検出下限値未満であることを示す。

*2 海水については平成20年度以降の測定値の範囲を、アラメについては平成18年7月以降の測定値の範囲を、エゾノネジモクについては令和元年度以降の測定値の範囲を、福島第一原発事故の前後に分けて示し、同事故後は同事故の影響による高い測定値を除外した平成28年度以降における測定値の範囲を示す。

*3 平成23年度～平成27年度における最大値を示す。

表-2-5 環境試料の核種分析結果*1

対象物	試料名	核種	令和7年度第3四半期測定値			前年度までの測定値*2			単位
			試料数	最小値	～	最大値	(上段) 平成22年度～平成22年度 (下段) 平成28年度～令和6年度	(参考) 福島第一原発 事故後5年間の 最大値*3	
農 産 物	精 米	Sr-90	2	N D			N D ～ 0.0089 *4	N D	Bq/kg生
		Cs-137	2	0.019	～	0.032	N D ～ 0.035 *4 N D ～ 0.112	0.214	
	大 葉	Cs-137	3	N D			N D ～ 0.085 N D ～ 0.165	1.11	Bq/kg生
		Cs-137	3	N D			N D ～ 0.015 N D ～ 0.023	0.588	Bq/kg生
陸 水	水道原水 (飲料水)	H-3	1	400			N D ～ 3200 N D ～ 450	610	mBq/L
		Cs-137	1	N D			N D ～ 8.5	282	
陸 土	未 耕 土	Sr-90	1	1.1			1.3 ～ 1.6 *5 1.0 ～ 1.2	2.6	Bq/kg乾土
		Cs-134	1	2.0			N D ～ 30.1 *5	125	
		Cs-137	1	187			N D ～ 13.1 *5 18.5 ～ 317	310	
浮遊じん	浮遊じん	Cs-137	14	N D			N D ～ 0.015	23.70	mBq/m ³
指 標 植 物	ヨモギ	Sr-90					0.065 ～ 1.00 0.088 ～ 0.43	0.54	Bq/kg生
		Cs-137					N D ～ 0.17 0.29 ～ 2.64	40.1	
	松 葉	Sr-90					0.86 ～ 1.83 0.71 ～ 1.28	2.10	Bq/kg生
		Cs-137	3	0.232	～	0.28	N D ～ 0.74 0.143 ～ 2.33	1476	
魚 介 類	アイナメ	Sr-90	1	N D			N D ～ 0.011 N D	N D	Bq/kg生
		Cs-137	1	0.100			0.062 ～ 0.21 0.11 ～ 0.21	10.16	
	マガキ	Sr-90	1	N D			N D N D	0.034	Bq/kg生
		Cs-137	4	N D ～ 0.039			N D ～ 0.058 N D ～ 0.10	1.13	
	マボヤ	Sr-90					N D N D	N D	Bq/kg生
		Cs-137					N D ～ 0.054 N D ～ 0.53	0.74	
	エゾアワビ	Cs-137	1	N D			N D ～ 0.053 N D ～ 0.082	0.22	Bq/kg生
	キタムラサキウニ	Cs-137					N D ～ 0.063 *6 0.035 ～ 0.20	1.66	Bq/kg生
海 藻	ワカメ	Sr-90					N D ～ 0.081 N D ～ 0.062	0.056	Bq/kg生
		Cs-137					N D ～ 0.080 N D ～ 0.15	2.39	
海 水	表 層 水	H-3	1	N D			N D ～ 670 N D	N D	mBq/L
		Sr-90					N D ～ 2.9 N D ～ 2.8	3.6	
		Cs-137	4	N D ～ 3.0			N D ～ 4.1 N D ～ 4.2	98	
海 底 土	表 層 土 (砂)	Sr-90	1	N D			N D N D	N D	Bq/kg乾土
		Cs-137	4	N D ～ 3.9			N D ～ 2.6 N D ～ 47.2	299	
指 標 海 産 物	アラメ	Sr-90					N D ～ 0.073 N D ～ 0.046	0.042	Bq/kg生
		Cs-137	3	N D ～ 0.084			N D ～ 0.16 N D ～ 0.16	12.76	
	エゾノ ネジモク	Sr-90					N D ～ 0.061 *7	—	Bq/kg生
		Cs-137					N D ～ 0.13 *7	—	
	ムラサキ イガイ	Sr-90					N D N D	N D	Bq/kg生
		Cs-137	1	N D			N D ～ 0.096 N D ～ 0.122	0.54	

*1 Cs-134 (検出された試料のみ)、Cs-137、Sr-90及びH-3の測定値を示し、対照地点で採取された試料並びに迅速法による海水、アラメ及びエゾノネジモクの測定値を除く。なお、NDは検出下限値未満であることを示す。

*2 測定値の範囲は福島第一原発事故の前後に分けて示し、同事故後は同事故の影響による高い測定値を除外した平成28年度以降における測定値の範囲を示す。

*3 平成23年度～平成27年度における測定値の最大値を示す。

*4 平成11年度の測定基本計画変更によって測定地点が谷川浜のみとされたため、精米の平成22年度～平成22年度については谷川浜における測定値の範囲を示す。

*5 平成21年度の測定実施計画変更によって測定地点が変更されたため、平成21年度～平成22年度における測定値の範囲を示す。

*6 平成11年度の測定基本計画変更によって追加された試料であるため、平成11年度～平成22年度における測定値の範囲を示す。

*7 令和元年度の測定基本計画変更によって追加された試料であるため、令和元年度以降における測定値の範囲を示す。

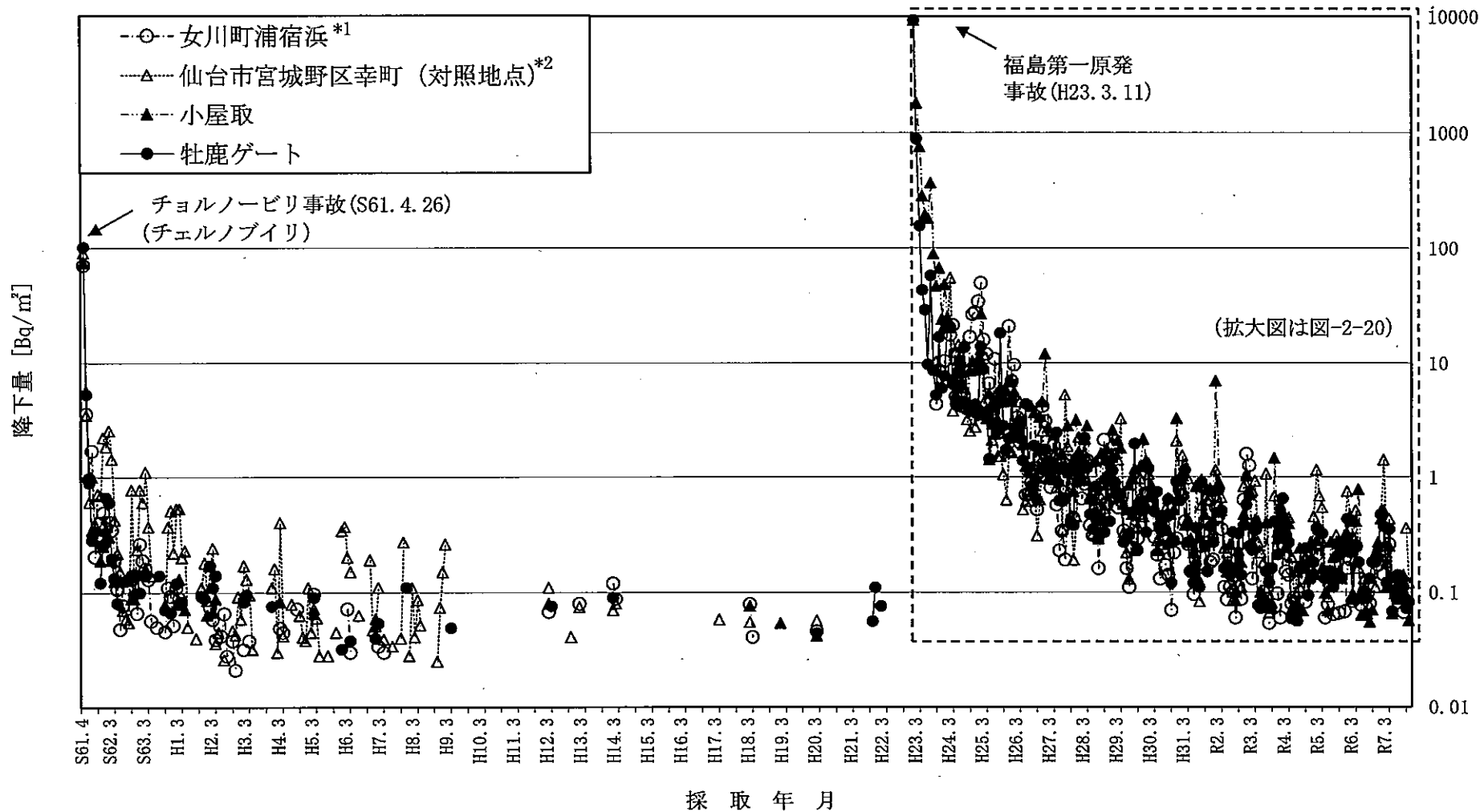
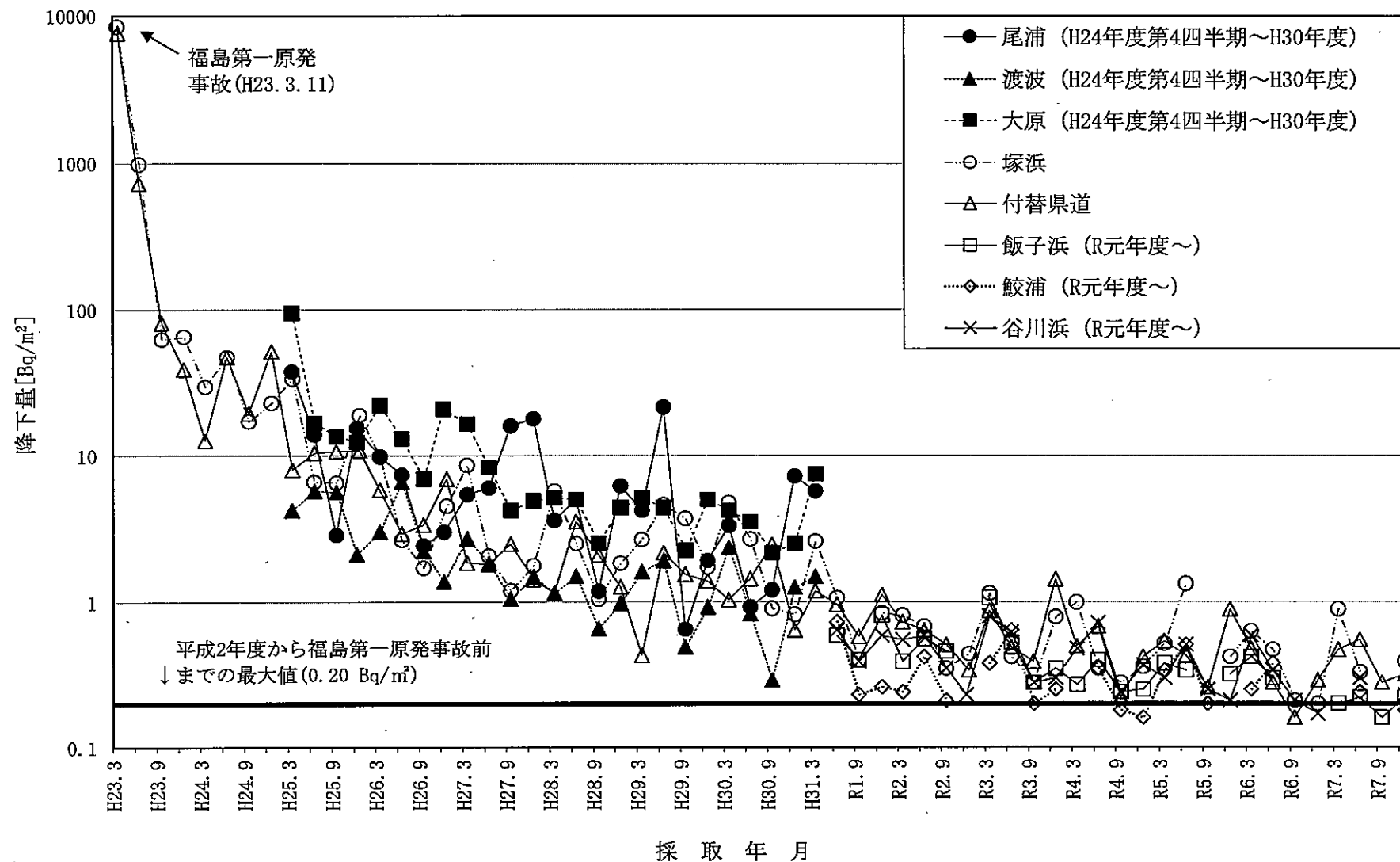


図-2-18 Cs-137の月間降下量の推移

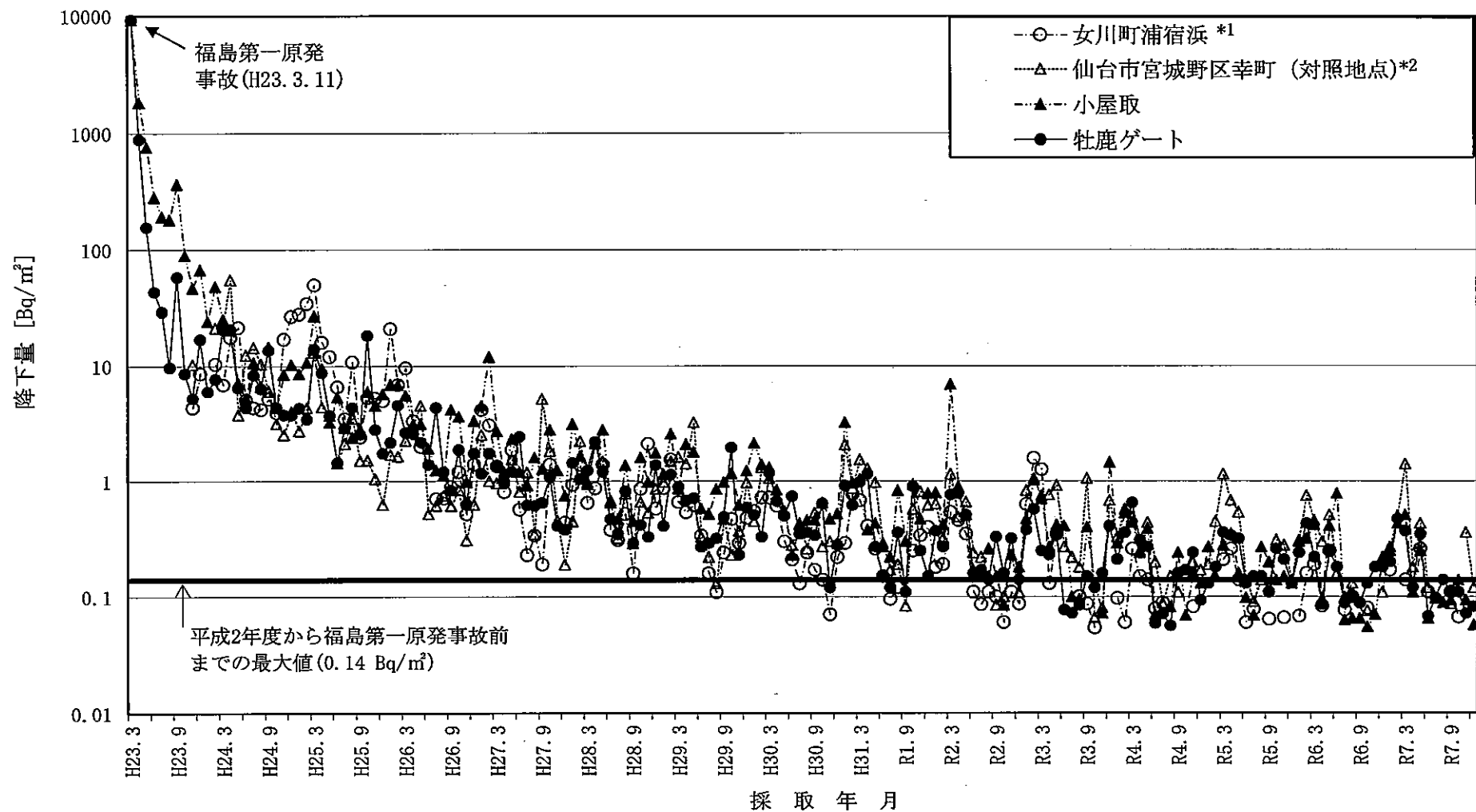
*1 平成23年8月10日以降、採取地点を女川町女川浜の旧原子力センターから同町浦宿浜の女川宿舎に変更している。

また、令和3年4月1日以降、採取場所を女川町浦宿浜地内の女川宿舎から女川オフサイトセンターに変更している。

*2 平成24年8月30日以降、採取地点を仙台市宮城野区幸町の保健環境センターから仙台市宮城野区安養寺の原子力センターに、平成27年3月30日以降、同区幸町の環境放射線監視センターに変更している。なお、平成9年4月1日に、仙台市宮城野区幸町の保健環境センターにおける採取場所を建物屋上から前庭地上へ変更した。



図－2－19 Cs-137の四半期間降下量の推移

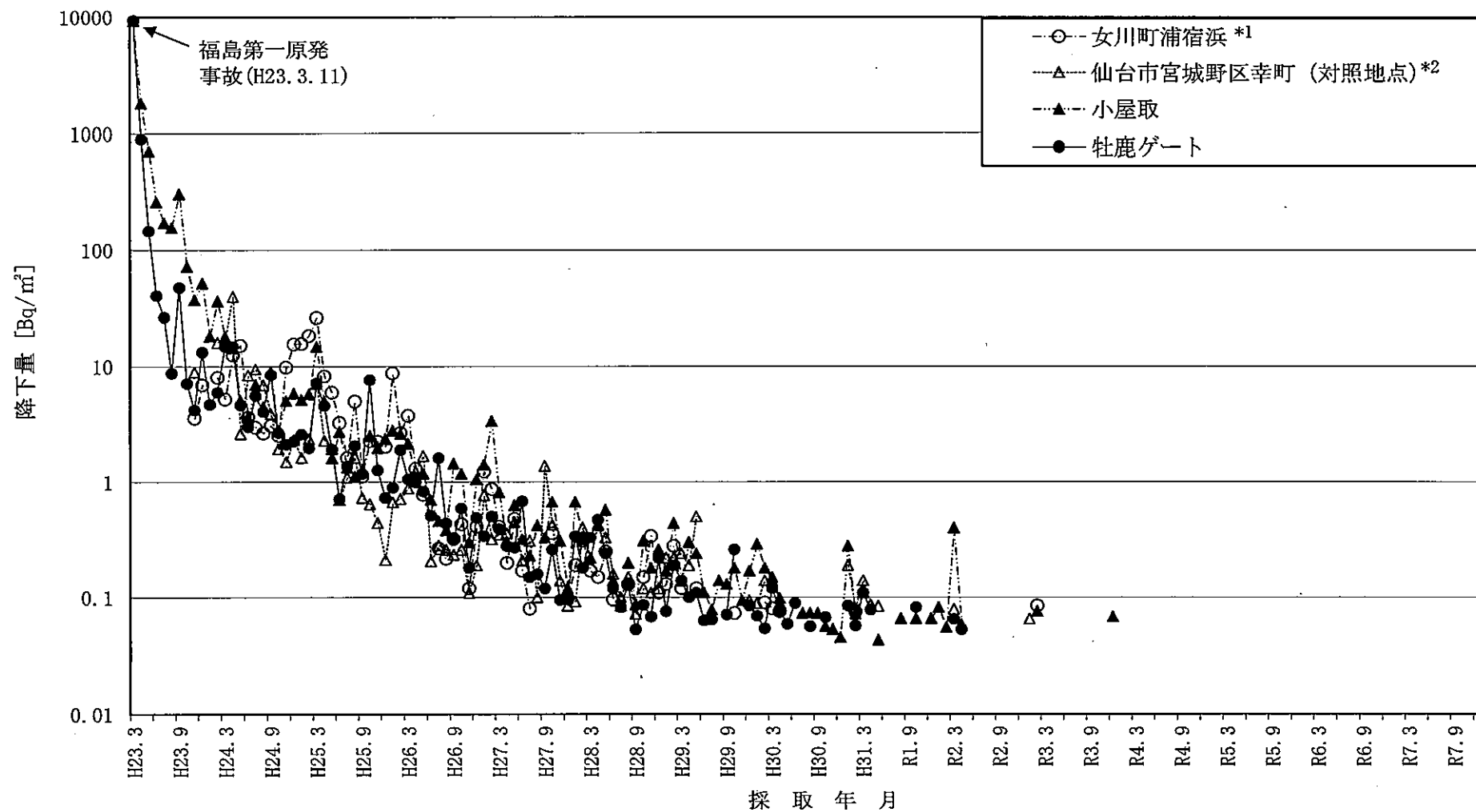


図－２－２０ 福島第一原発事故後のCs-137の月間降下量の推移

*1 平成23年8月10日以降、採取地点を女川町女川浜の旧原子力センターから同町浦宿浜の女川宿舎に変更している。

また、令和3年4月1日以降、採取場所を女川町浦宿浜地内の女川宿舎から女川オフサイトセンターに変更している。

*2 平成24年8月30日以降、採取地点を仙台市宮城野区幸町の保健環境センターから仙台市宮城野区安養寺の原子力センターに、平成27年3月30日以降、同区幸町の環境放射線監視センターに変更している。



図－２－２１ 福島第一原発事故後のCs-134の月間降下量の推移

*1 平成23年8月10日以降、採取地点を女川町女川浜の旧原子力センターから同町浦宿浜の女川宿舎に変更している。

また、令和3年4月1日以降、採取場所を女川町浦宿浜地内の女川宿舎から女川オフサイトセンターに変更している。

*2 平成24年8月30日以降、採取地点を仙台市宮城野区幸町の保健環境センターから仙台市宮城野区安養寺の原子力センターに、平成27年3月30日以降、同区幸町の環境放射線監視センターに変更している。

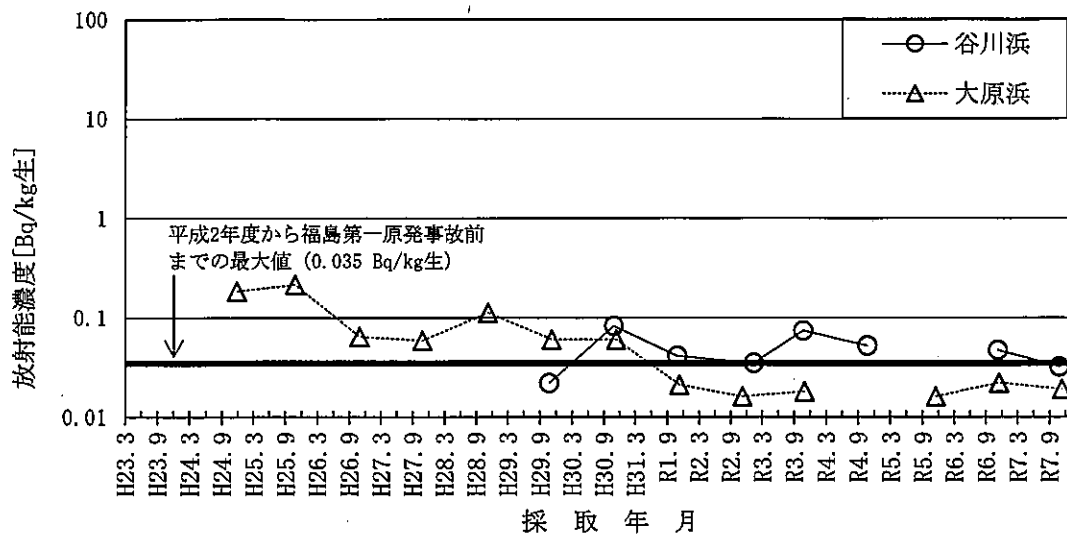


図-2-22 精米のCs-137濃度の推移

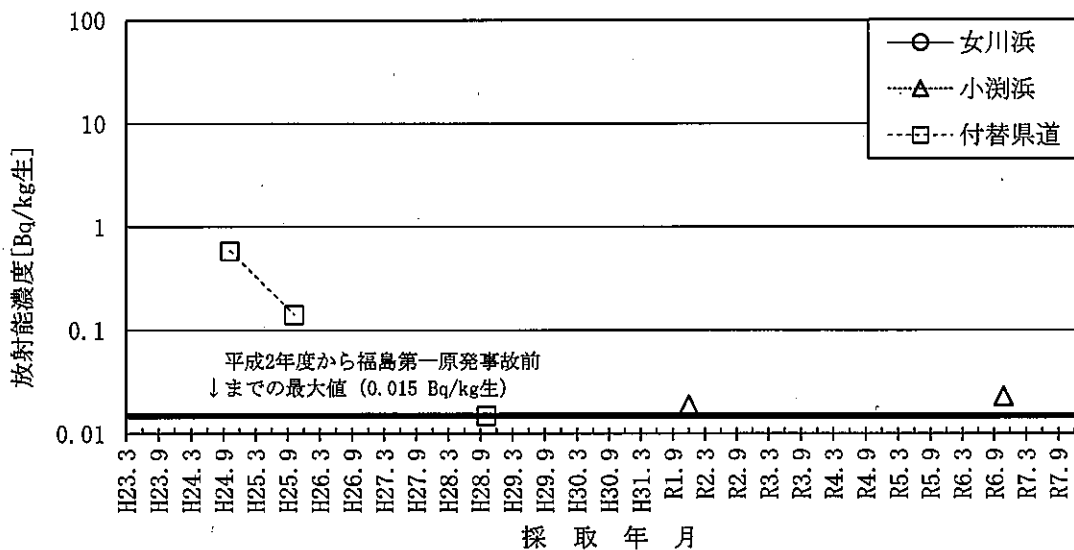


図-2-23 大根(根)のCs-137濃度の推移

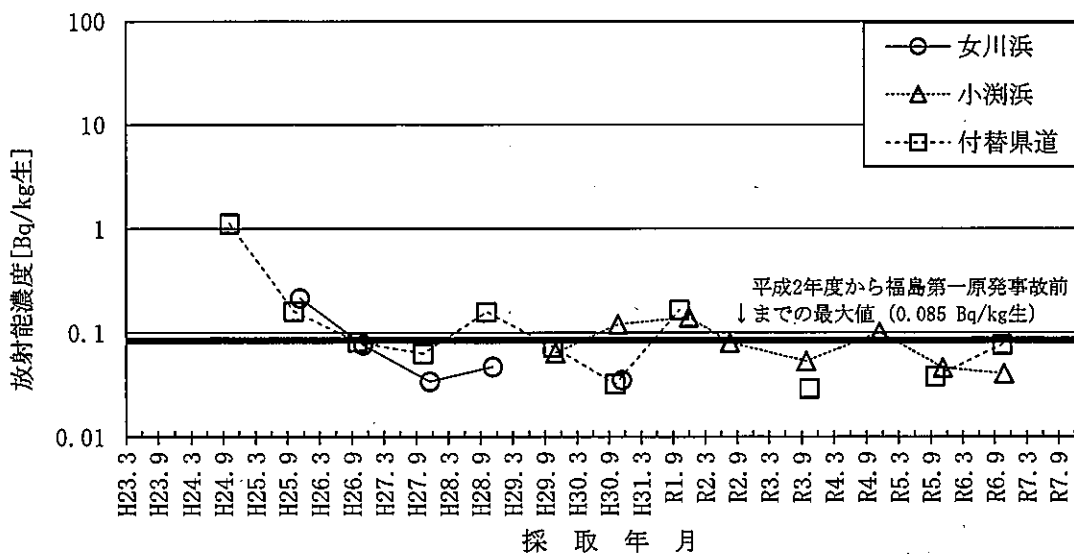


図-2-24 大根(葉)のCs-137濃度の推移

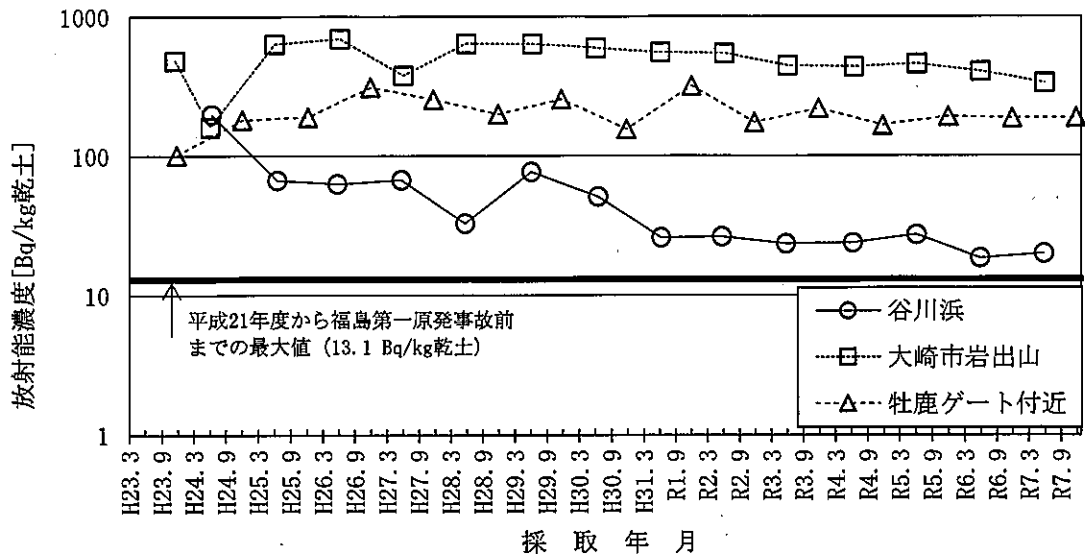


図-2-25 陸土のCs-137濃度の推移

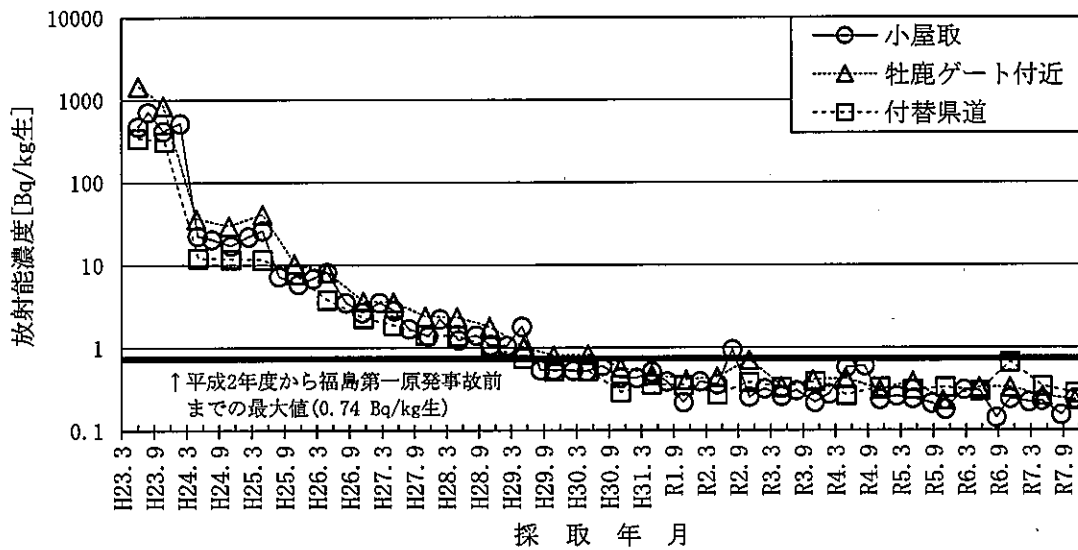


図-2-26 松葉のCs-137濃度の推移

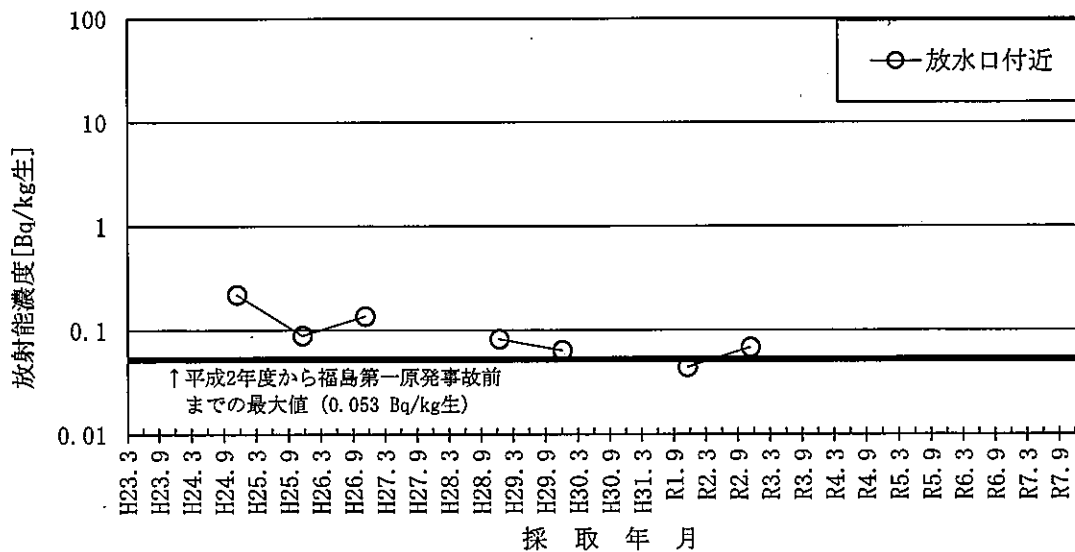


図-2-27 エゾアワビのCs-137濃度の推移

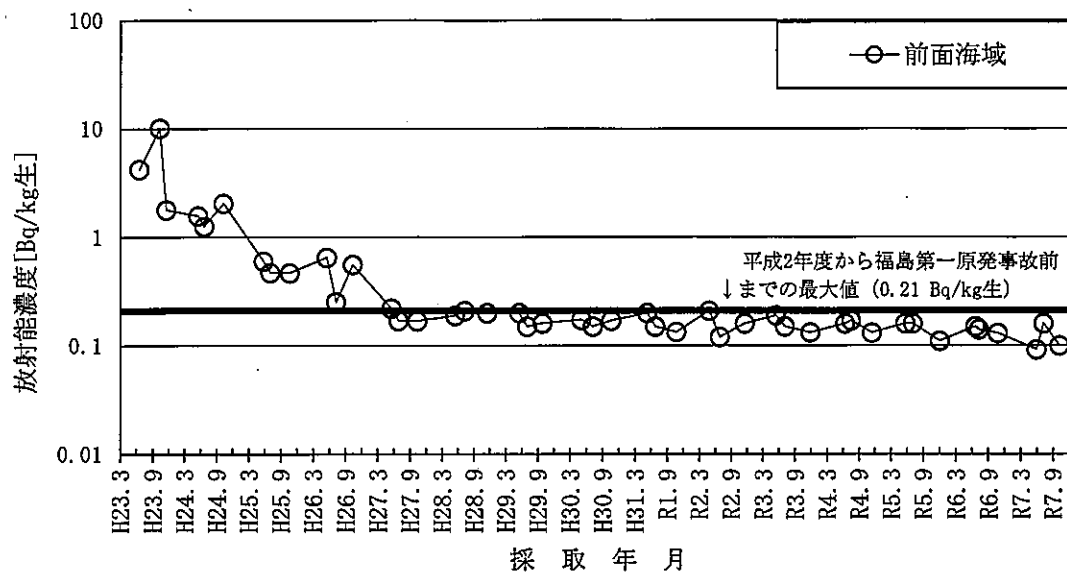


図-2-28 アイナメのCs-137濃度の推移

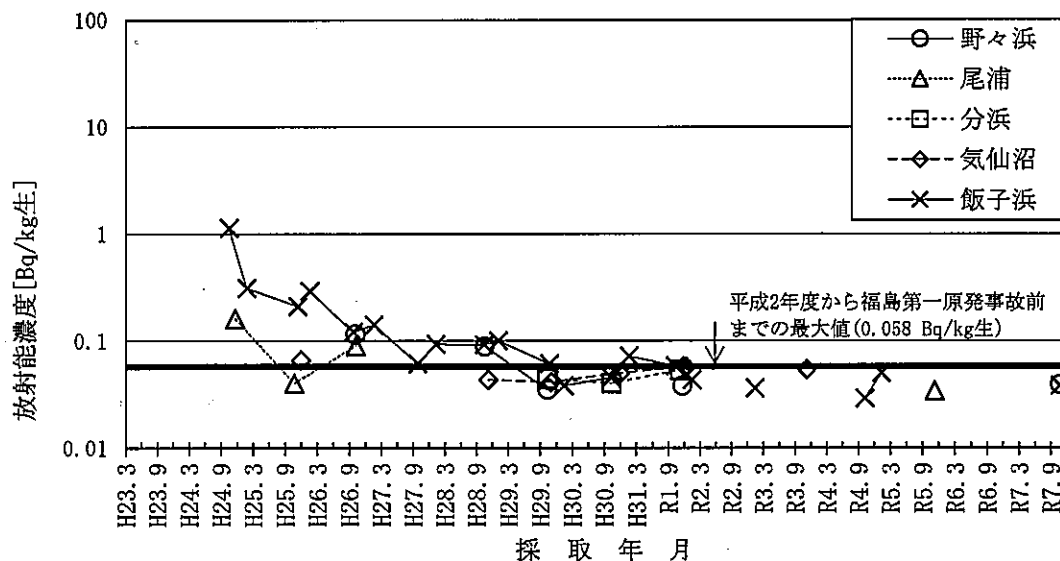


図-2-29 マガキのCs-137濃度の推移

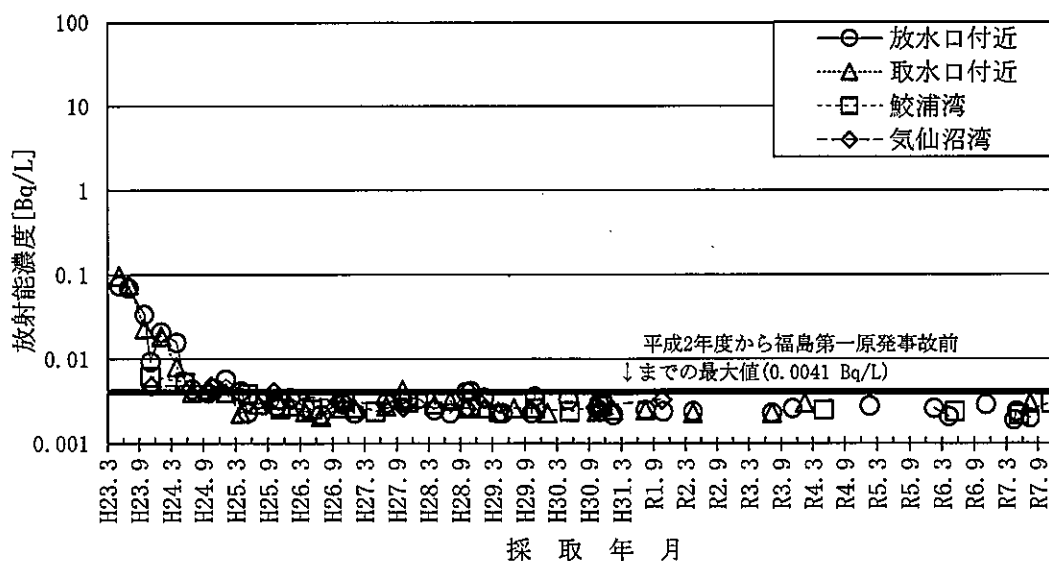


図-2-30 海水のCs-137濃度の推移

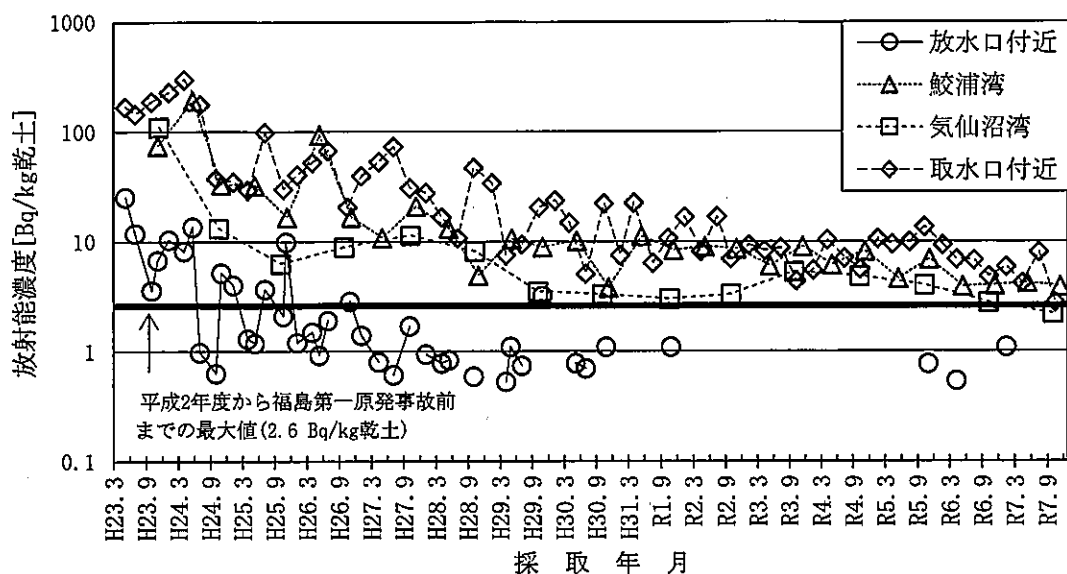


図-2-3-1 海底土のCs-137濃度の推移

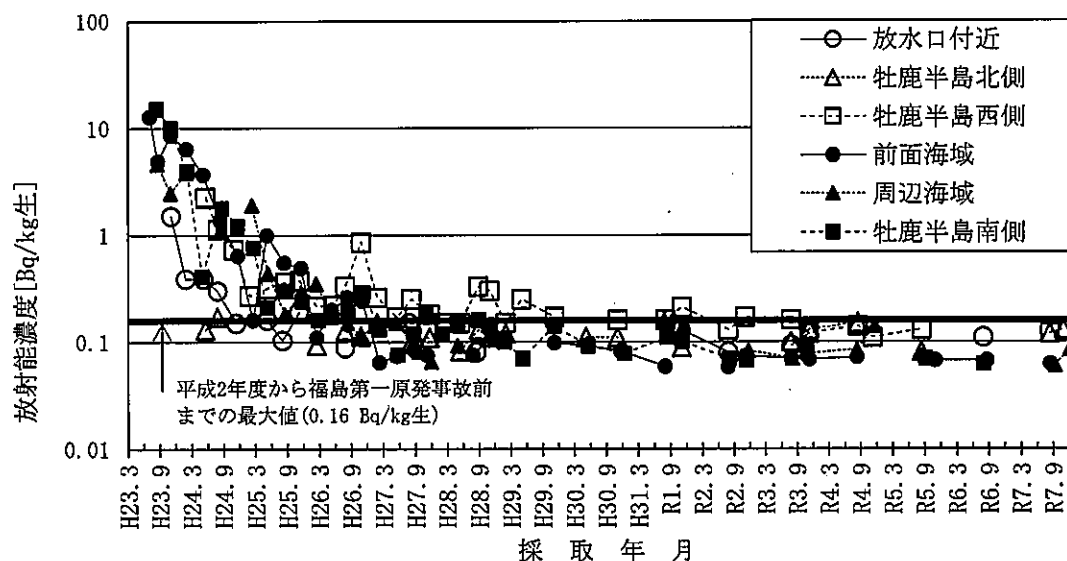


図-2-3-2 アラメのCs-137濃度の推移

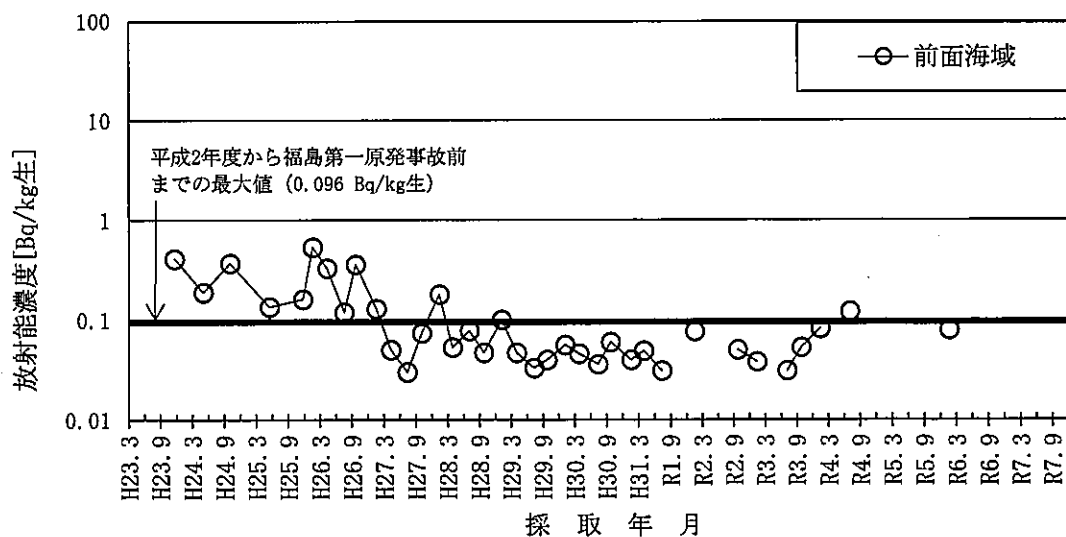


図-2-3-3 ムラサキガイのCs-137濃度の推移

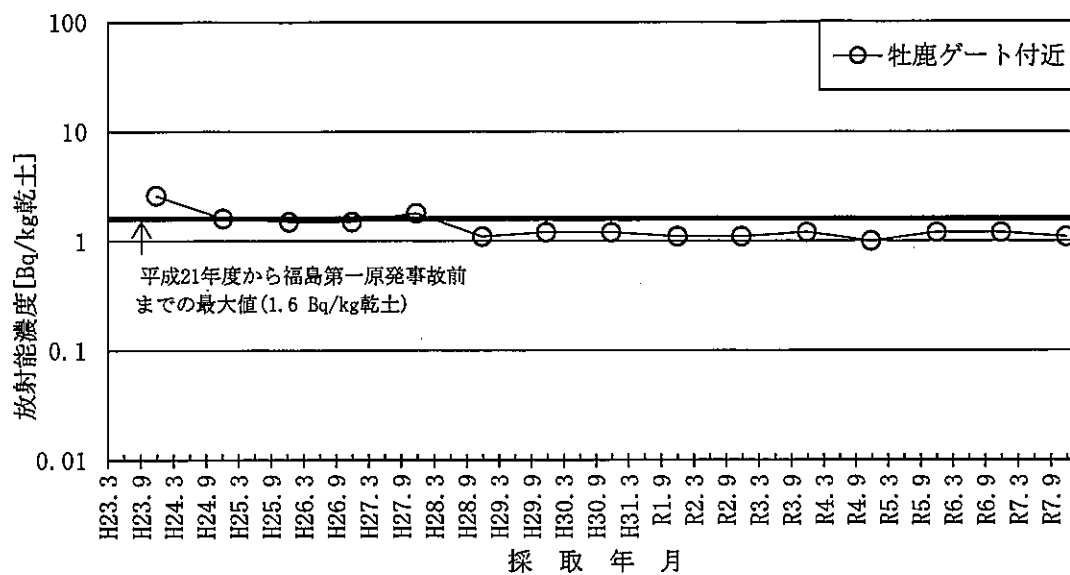


図-2-34 陸土のSr-90濃度の推移

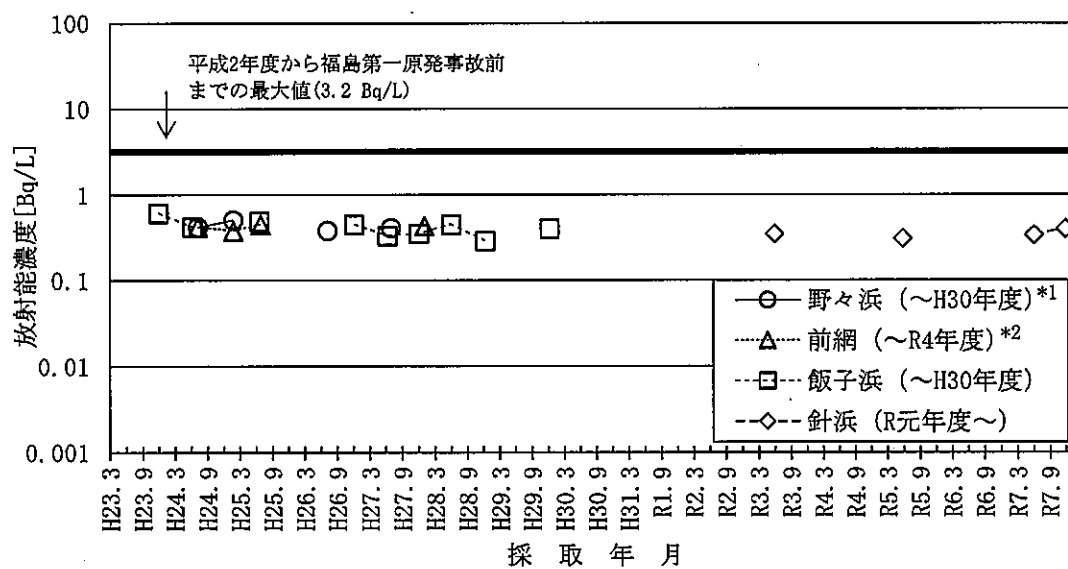


図-2-35 陸水のH-3濃度の推移

*1 令和元年度以降、採取地点を野々浜から女川浜へ変更している。

*2 令和5年度以降、採取地点を前網から泊浜に変更している。